

平成 16 年度マスターセンター補助事業

鹿児島県の「食の安心・安全」に関する調査研究
- 消費者アンケートを中心として -

報 告 書

平成 17 年 1 月

社団法人 中小企業診断協会 鹿児島県支部

はじめに

私の好物と言えば・・・「あわび」「ひよどり」「すいか」に「白熊」である。「白熊」については、結構うるさい。自分で毎年10個以上のノルマを課している。前2者については、もうめったに口に出来ないものとなった。

かなり昔、少年時代に、親父と2人で山を駆けて鉄砲打ちをした記憶や、(もちろん私が犬代わりである)

親父の親しい漁師さんが「サブちゃん(今は亡き親父の愛称である)あわびが取れたで食わんな」と言って持ってきてくれた大ぶりの取れ立ての「あわび」を腹一杯食べていたのを思い出す。

思えばあの頃のおやつは、味噌を付けたにぎりめしか、畑から挽ぎ取ったきゅうりの丸かぶりだった。

学校から帰り、親から小遣いを貰っては駄菓子屋に走ったものだ。多分サッカリンなんかも大分体内に蓄積されたと思う。それでも日本は世界一の長寿国である。親はそれなりに考えてはいたのであろうが、子供だった自分が食に関して「安全性」とか考えたことも無かった。

食うことに必死だったあの頃「安全性」は二の次三の次であった。科学の進歩と豊かさの増大、健康への関心の高まりが「食の安心・安全」への関心を高める。

本報告書にもあるとおり、鹿児島県は日本でも有数の食料供給県であり、また「食品」産業は、県の基幹産業である。

一般的には食うに困らない今「食の安心・安全」に対する消費者の考えを知り、消費者の求める食材を生産・加工・提供していくことが供給者に強く求められている。

今回の調査研究は、アンケート調査を中心に行っているが、その回収率も高く(高過ぎたのかも知れないが)消費者の考えが、細かい分析も交えてかなりつまびらかにされたのではないだろうか。

アンケートにご協力頂いた各団体・個人及び支部会員に深く感謝すると共に、本事業に真摯に取り組んだ調査員諸氏と、打ち上げで「さつまあげ」や「黒豚」を肴に鹿児島産芋焼酎で一杯やりたいものだと思う。

2005年1月

社団法人 中小企業診断協会鹿児島県支部
支部長 笠毛 久幸

第1章 調査の目的	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
第2章 アンケート結果	3
1. 食品の買い物は週に何回ぐらいしますか？（一つだけ選んでください）	3
2. 食品は主にどこで買いますか？（複数回答可）	4
3. 食品を買う時に何を優先しますか？（複数回答可）	5
4. 地元産の食材はどんな点が評価できますか？（複数回答可）	6
5. 食品について不安に思うことがありますか？（一つだけ選んで下さい）	7
6. 食品に関してどんな不安を感じていますか？（複数回答可）	8
7. 食品について不安を感じる項目にどんなものがありますか？（複数回答可）	10
8. 食品に関して被害にあったことがありますか？	12
9. あなたは食品の安心・安全に関する情報を主にどこで収集していますか？（複数回答可）	13
10. 安心・安全の確保のために参考にしている表示はどれですか？（複数回答可）	14
11. 安心・安全の確保のための基準にしているものがありますか？（複数回答可）	16
12. 安心・安全を感じる認定マークは何ですか？（複数回答可）	18
13. 10月から安心・安全の鹿児島農林水産物認証制度が始まりました。この認証制度に付いて一つだけ選んで下さい。	20
14. 安心・安全を確保できるなら幾ら払っていいですか？（(1)(2)(3)毎に一つ選んで下さい）	23
15. 安心・安全について生産者、製造者、お店に求めるものは何ですか？（複数回答可）	26
16. 安心・安全について行政・研究機関などに求めるものは何ですか？（複数回答可）	29
17. 食の安心・安全の今後について要望することは？（複数回答可）	32
18. 自由意見	33
第3章 食の安心・安全調査アンケートまとめ	35
第4章 食の安心・安全に関する取組み・認証マーク・食品表示等基礎知識	39
1. 食の安心・安全に関する取組み	39
2. 認証マーク	39
3. 食品表示	42
添付資料：アンケート用紙および集計データ	48

第1章 調査の目的

1.調査の目的

九州は温暖な気候と自然資源に恵まれ、古くから「食料供給基地」として位置付けられてきた。それは1割経済と言われるGDPでありながら、農林水産業の産出額が全国の2割を占めている所や2004年版九州経済白書が「フードアイランド九州」と銘打った所にも現れている。

その九州の中でも鹿児島県は、食料自給率でこそ83%と佐賀県の100%に及ばないが（全国平均40%、いずれも2002年度調査）、黒豚に代表される圧倒的な評判と飼育頭数を誇る畜産（豚、牛、鶏）を始め、全国1,2位の産出額を持つそらまめ、おくら、かぼちゃ、さやえんどう、さとうきび、かんしょ（さつまいも）にがうり、ぱれいしょ、そしてお茶などの野菜類の栽培、ぶり、かんぱち、うなぎなどの養殖漁業も盛んである。

さらに食品加工業（食肉、漬物、鰹節など）、焼酎製造業などを合わせると「食品」は間違いなく鹿児島県の基幹産業となっている。

こうした集積をもとに、更なる固有技術の蓄積を目指して数多くのテーマが産学官連携事業のテーマとして取り上げられている状況である。とりわけ近年はBSEなどの疫病対策、企業の不祥事による不正表示問題、健康ブームに乗った健康食品などへの関心が高まり、「食の安心・安全」問題がクローズアップされてきた。

特に本年は4月に鹿児島県に「食の安全推進課」が設置され、10月から「鹿児島県農林水産物認証制度」がスタート、11月からは家畜排せつ物の管理基準の適用（堆肥化の義務付け）、12月からは「牛肉トレーサビリティ法」の施行と制度の変更が目白押しである。

そこで食に関係する分野において、特に中小企業にとって「食の安心・安全」問題に対してどんな取組みが必要かつ効果的であるのかの資料を得るため、鹿児島県の消費者を対象としたアンケートを中心に調査研究を行うこととした。

2.調査方法

(1)アンケート調査

調査対象及び調査手段

鹿児島県内の成人を対象に商工会議所（3ヶ所）、商工会（86ヶ所）の職員の方々に協力を依頼したものがほぼ半数、中小企業診断協会鹿児島県支部会員の方々に協力依頼したものが1/6、当調査研究メンバーが地域・勤務先等身近な消費者を対象に配布したものが1/3となった。当初、1200部印刷してお願いしたが、随所でコピー増刷して協力頂いたため正確な配布枚数は掴めなくなった。

調査期間

平成16年11月12日～平成16年11月30日

回収実績

アンケートは 1200 部 + (百部以下と思われる) 配布し 903 部回収、回収率がおよそ 3/4 という高い回収率であった。ルート別に配布、回収をチェックしてあるが正確性を欠くため公表は控えたい。

(2)聞き取り調査

株式会社鹿児島 TL0 技術移転マネージャー 吹留博実氏
財団法人かごしま産業支援センター 産学官連携課 中村純仁氏
鹿児島県工業技術センター 食品工業部 前野一朗部長、久保敦氏
鹿児島大学農学部農業市場学研究室 岩元泉教授
鹿児島大学地域共同研究センター 下舞三男助教授
鹿児島県農政部食の安全推進課 福留哲郎係長
社団法人鹿児島県農業・農村振興協会 下野公正専務理事、小谷勇次長

(3)文献調査

フードアイランド九州 2004 年版九州経済白書 財団法人九州経済調査会
何を食えば安全か 武田邦彦著 青春出版社
食生活データ総合統計年報 2004 年版 生活情報センター
かごしま産学官交流研究会 食の安心・安全部会資料
鹿児島県食品産業機能高度化支援対策委員会資料
鹿児島県食の安心・安全基本方針、かごしまの農林水産物認証制度実施要綱
農林水産省 食の安全・安心のための政策大綱
その他新聞記事多数、ホームページ検索

(4)調査メンバー

調査メンバーは以下の 5 名である。

鹿児島県支部正会員	伊地知 誠
	浦島 和衛
	佐伯 敏雄
	久留 正成
	南崎 信哉

第2章 アンケート結果

1. 食品の買い物は週に何回ぐらいしますか？（一つだけ選んでください）

毎日 2日に1回 3日に1回 週1回 週1回より少ない

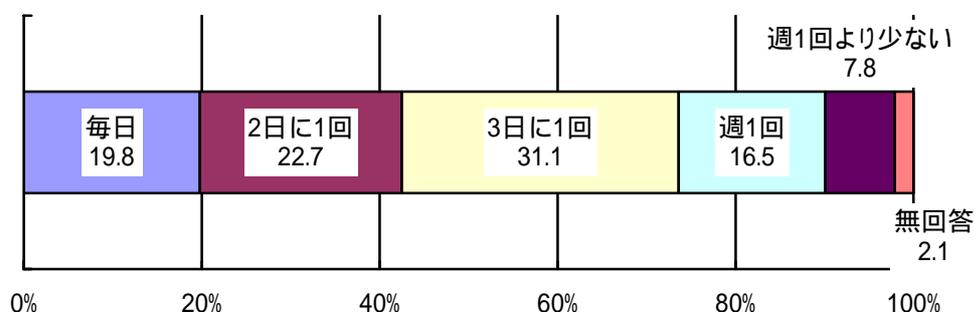
(1)全体

「毎日」買い物する人は5人に1人である（19.8%）

「2日～3日に1回」の人が約半数である（53.8%）

「週に1回以下」の人は4人に1人である（24.3%）

図 2-1 食品の買物回数



(2)男女別

女性は、「毎日または2日に1回」の人が約半数（50.6%）を占めている。

男性は、「週1回以下」が約4割（39.1%）である。

(3)年代別

専業主婦が増える40代～50代では「毎日または2日に1回」の人が多い。（49.7%）

勤め人が多い20代～30代では「週1回以下」の人が多い。（34.0%）

(4)職業別

主婦は、「毎日または2日に1回」の人が6割を占める。

(5)同居者数別

4人以上では「毎日または2日に1回」の人が多い（54.3%）

1人以下では「週1回以下」の人が多い。（26.0%）

(6) まとめ

「毎日」または「2日～3日に1回」買い物をする人が73.6%を占め、食品に対する配慮の高さが窺える。

「週に1回以下」の人も24.3%を占めるが、20代～30代の若い人（特に男性）にその比率が高い。

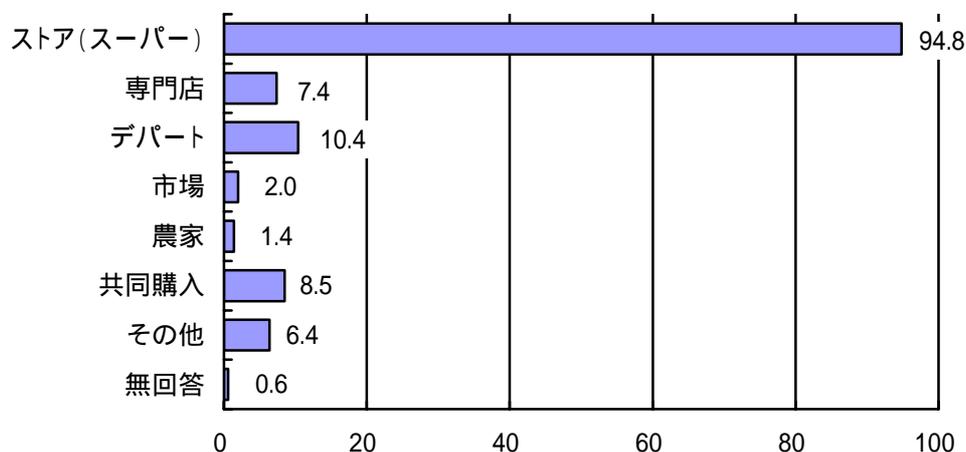
2.食品は主にどこで買いますか？（複数回答可）

ストア（スーパー） 専門店 デパート 市場 農家 共同購入
その他（ ）

(1)全体

殆どの人（94.8%）が主に「ストア（スーパー）」で買い物をしている。
主として「デパート」での人は10.4%、「専門店」での人は7.4%と少ない。

図 2-2 食品の買物場所



(2)男女別

女性は、「デパート」、「共同購入」での割合が男性より高い。

(3)年代別

50代以上では「デパート」での割合が高い。

30代では「専門店」での割合が高い。

(4)職業別

主婦では「共同購入」の利用がかなり多い。

(5)同居者数別

少人数では「デパート」の利用が多い。

(6)その他

その他欄の記入は54件で内容としては、コンビニ店、近くの個人店、直売所などが多かった。

(7)まとめ

殆どの消費者は、主として一括購入ができ、駐車場などの利便性が良い「ストアまたは

スーパー」で食品を買っており、「ストアーまたはスーパーの食品供給への責任は大きい。

「専門店」で食品を買う消費者は極く少なく、店の選択範囲が狭まっていること、および、専門店の経営が難しいことを示している。

対面販売の場が少なくなっており店頭で消費者が食品に関する情報を得にくくなっている。

「共同購入」比率がかなり高く、特定の会員組合によるものと見られ、安全、健康への志向として注目される。

3. 食品を買う時に何を優先しますか？（複数回答可）

おいしさ 新鮮さ 割安感 無添加・有機など原材料へのこだわり
使いやすさ 見栄え・見た目 健康への効果 有名ブランド
地元産 国内産 海外産 手に入りやすさ その他（ ）

(1)全体

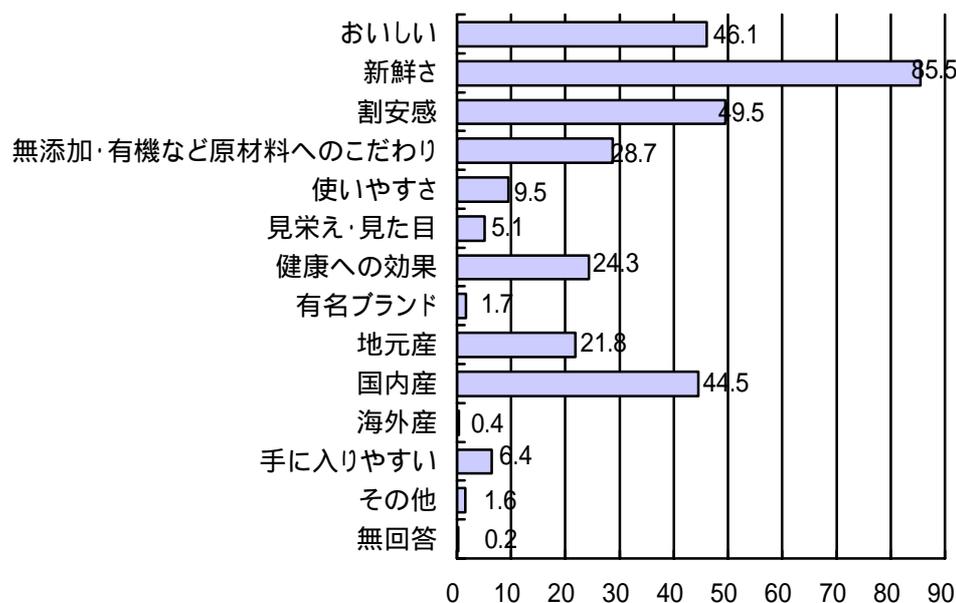
殆どの人（85.5%）が「新鮮」を最優先している。

次いで「割安感」（価格）、「おいしさ」（味）の順で、それぞれ約半数を占めている。

「無添加、有機など」（安全性）は28.7%、「健康への効果」24.3%となっている。

「国内産」（44.5%）、「地元産」（21.8%）となっている。

図 2-3食品購入時の優先順位



(2)男女別

女性で、「無添加、有機など」および「国内産」へのこだわりが男性よりかなり高い。
男性では、「おいしさ」とともに「割安感」への比重が女性よりも高い。

(3)年代別

30代以下では「おいしさ」、「割安感」を優先する人が多い。
50代以上では「無添加、有機など」、「健康への効果」を優先する人が多い。
「国内産」へのこだわりは若年、高年代ともに高い。
「地元産」へのこだわりは高年代が高い。

(4)職業別

主婦は、「無添加、有機など」、「国内産」へのこだわりが高い。

(5)同居者数別

3人以上では、「無添加、有機など」へのこだわりが高い。

(6) まとめ

消費者の食品購入時のニーズは、「新鮮で、安くて、おいしい」が一般的であり、この調査結果でもそれを示しているが、「新鮮さ」と「割安感」との開きがかなり大きい。

「無添加など」、「健康への効果」などの健康志向を優先する人も3~4人に1人いる。

「国内産」、「地元産」への順位がかなり高く、「海外産」への不安感と「国内産」への信頼を期待する現れとして注目される。

「地元産」も21.8%を占めている。

4. 地元産の食材はどんな点が評価できますか？（複数回答可）

安い おいしい 新鮮 安心 愛着がある 特にない その他（ ）

(1)全体

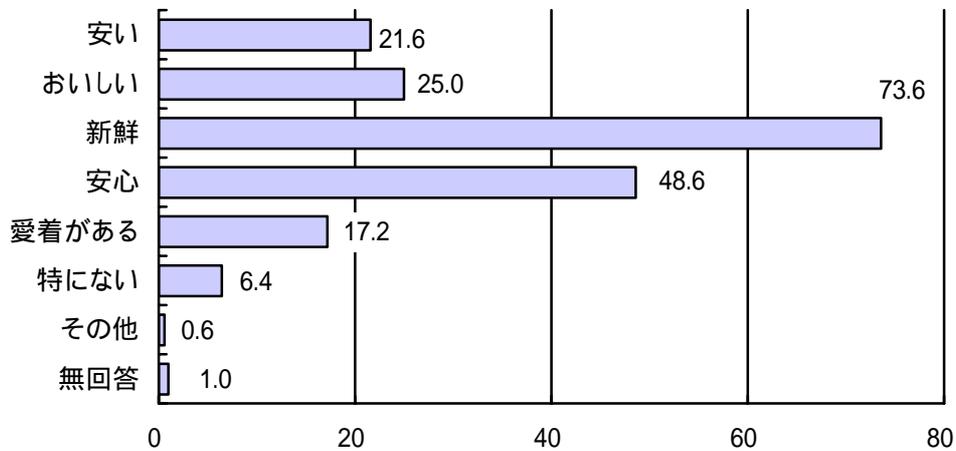
「新鮮」を評価する人が7割を占め（73.6%）最多である。

「安心」を評価する人は2位で約半数（48.6%）を占める。

「おいしい」（味）を評価する人は4人に1人、「安い」（価格）は5人に1人でやや少ない。

「愛着がある」は、17.2%であまり多くない。

図 2-4 地元産の食材への評価



(2)男女別

女性では「新鮮」、「安心」の評価が高い。

男性では「おいしい」(味)への評価が高い。

(3)年代別

30代以下では、「おいしい」(味)への評価が高い

40代以上では、「新鮮」への評価が高い。

(4)職業別

主婦では、「新鮮」、「安心」の評価が高い。

(5)まとめ

地元産への評価は、「新鮮」と「安心」が最も多く、購入時の優先順位(問3)の最多順位と符合している。

「安心」を約半数の人が評価しており、身近かに見えることへの信頼感、愛着が伺える。

味、価格への評価は余り高くなく、今後への課題と思われる。

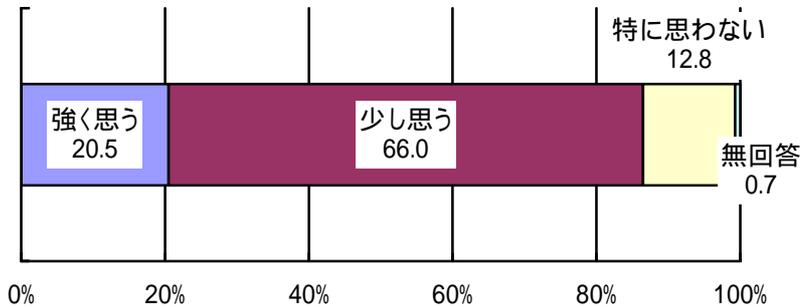
5. 食品について不安に思うことがありますか？(一つだけ選んで下さい)

強く思う 少し思う 特に思わない

(1)全体

食品について不安を「強く思う」人が全体の 20.5%、「少し思う」人が 66%であり、合計すると 86.5%の人が食品について不安を持っている。

図 2-5 食品についての不安



(2)年代別

80代以上で食品について不安を「強く思う」が42.9%と非常に高い。30 - 60代では21 - 27%であるが20代では9.4%と最も低い。一方食品について不安を「特に思わない」という率は20代・30代で20.1%、18.9%であり、全体平均の12.8%に比べ高い。高齢者ほど食品について不安を強く感じ、若い人は気にしない人の比率が高い。

(3)男女別

食品について不安を「強く思う」が男性で16.3%、女性で23.0%である。食品について不安を「少し思う」が男性64.7%、女性67.6%であり、女性のほうが男性に比べ不安を強く思っている。

(4)同居者数別

食品について不安を「強く思う」人が同居人数5人以上で26.2%、4人で21.9%、3人で23.5%である。一方1人で17.6%、0人で20%であり同居者数が少ない人は食品について不安を「強く思う」は少ない。子供や高齢者のいる同居者数の多い人が食品について不安を強く思っている。

(5)職業別

主婦は食品について不安を「強く思う」が23.1%、「少し思う」が70.3%である。合計すると93.4%の主婦が食品について不安を感じている。

(6)まとめ

食品について不安を「強く思う」人が全体の20.5%、「少し思う」人が66.0%であり、合計すると86.5%の人が食品について不安を感じている。

食の安全に不安を感じる人は、高齢者、女性、主婦、同居人数の多い人である。逆に若い人、男性、同居人の少ない人では不安を感じる率は低い。

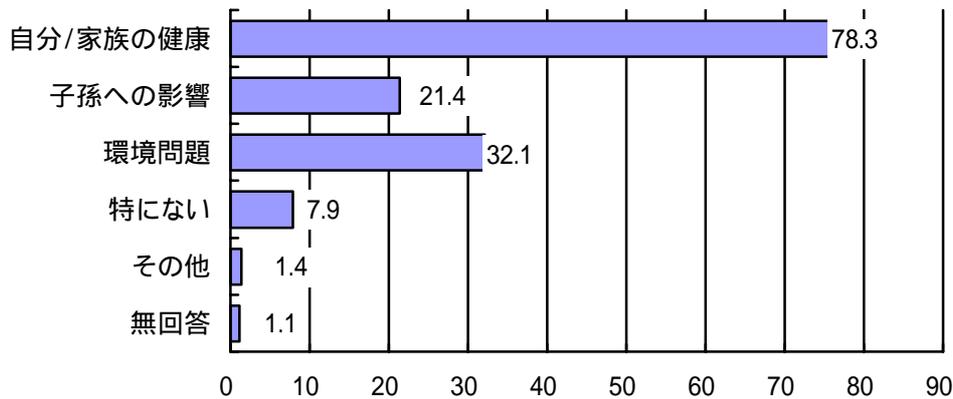
6.食品に関してどんな不安を感じていますか？（複数回答可）

自分/家族の健康 子孫への影響 環境問題 特にない その他（ ）

(1)全体

不安に思う食品による影響は「自分/家族の健康」が最も多く78.3%である。次が「環境問題」で32.1%、そして「子孫への影響」が21.4%である。食品に不安が「特にない」が7.9%であり、ほとんどの人が食品に対しなんらかの不安を持っている。

図 2-6 どんな不安を感じるか



(2)年代別

「自分/家族への健康」は40 - 70代の人75 - 85%と多い。また「子孫への影響」は30 - 60代の人14 - 25%である。「環境問題」への影響は30 - 60代が33 - 45%である。不安が「特にない」は40 - 60代が4 - 7%であるが、20 - 30代は11 - 12%、70 - 80代は12 - 14%である。

(3)男女別

「自分/家族の健康」は男性が71.1%、女性が82.8%であり女性が11.7%高い。「子孫への影響」また「環境問題」も6 - 9%女性が男性に比べ高い。また不安が「特にない」は男性13.0%に対し女性は4.8%と低い。男女間での不安の感じ方の差が顕著である。

(4)同居者数別

「自分/家族への健康」は同居者数3人と5人以上で79.5%、81.0%である。「子孫への影響」については5人以上の同居者数で40.5%と平均値の約2倍高い。「環境問題」について最も不安を感じているのは同居者数3人で40.0%、5人以上が38.1%で平均より10ポイント高い。

(5)職業別

主婦は不安を強く感じており「自分/家族への健康」、「子孫への影響」、「環境問題」について各々84.7%、27.6%、32.7%である。

特徴的なところでは、「環境問題」の不安について自営業者では42.2%と全体平均の32.1%に比べ高い。

(6)まとめ

食品の問題が「自分/家族への健康問題」につながることを最も強く不安に感じている。

特に同居者数の多い人、40代以上の主婦の食に対する不安が高い。また「環境問題」についても不安を感じているが、特に自営業者での不安が高い。自営業者が「環境問題」について不安を感じる人が多いのは、環境汚染による不動産の劣化や商品への悪影響を懸念しているのだろうか。

7.食品について不安を感じる項目にどんなものがありますか？（複数回答可）

食中毒 添加物 残留農薬 遺伝子組換え 環境ホルモン 環境汚染
BSE 豚コレラ 鳥インフルエンザ 口蹄疫 輸入食品 アレルギー
生活習慣病 特にない その他（ ）

(1)全体

「添加物」が65.6%、「残留農薬」が53.9%と格段に多い。次が「輸入食品」で38.6%である。

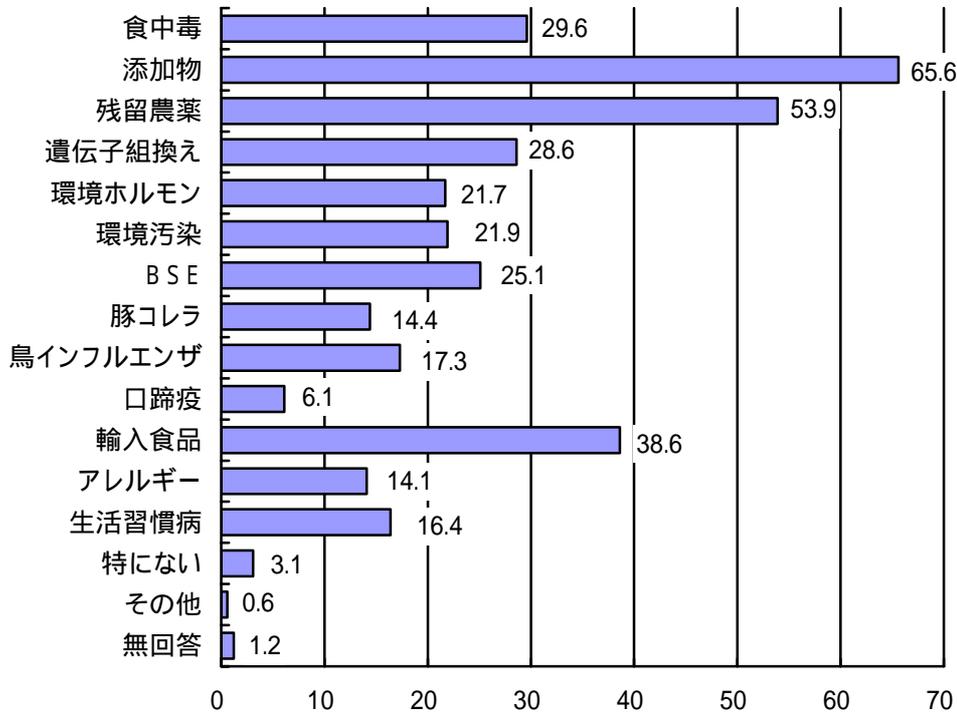
環境関連では、「遺伝子組み換え」が28.6%、「環境ホルモン」が21.7%、「環境汚染」が21.9%であり比較的高い。

肉関連では「BSE」が25.1%、「豚コレラ」14.4%、「鳥インフルエンザ」が17.3%、「口蹄疫」6.1%であり、生産者にとっては厳しい経営課題であるが、消費者はマスコミで騒がれる割には比較的冷静に認識していると思われる。

「食中毒」は、既に当然のこととして認識されているからか29.6%と低い。「アレルギー」、「生活習慣病」も14.1%、16.4%ある。

「輸入食品」の不安をあげた人は不安項目を多く選んでいるが、「添加物」、「残留農薬」への不安も高いが、「遺伝子組み換え」が37%、「BSE」が32.1%と全体平均（28.6%、25.1%）より高いのが特徴的である。

図 2-7 不安を感じる項目



(2)年代別

「食中毒」については70代と80代以上が47.1%、42.9%と高く、また20代が40.3%と高い。一方40代、60代は22.5%、21.7%と低い。年代の高い方と若い方の2つに「食中毒」への不安の山がある。

「添加物」への不安は40代が72.9%、50代が72.0%、60代が67.7%の順で高い。

「残留農薬」への不安は60代が68.1%、70代が61.8%、40代が60.2%の順で高い。

「遺伝子組み換え」の不安については30,40代の各年代が高く31.4%、31.3%である。また「環境ホルモン」の不安についても30,40代が高く27.8%、25.3%である。そして「環境汚染」の不安については30 - 60代の各年代で22.5-29.0%である。

環境に関する不安項目では30,40代での関心が比較的高い。

「BSE」の不安については20 - 60代の各年代で24.2-27.7%であり、70代では14.7%と低い。

「輸入食品」への不安は80代で57.1%、60代で55.1%、40代で42.2%の順で高い。

(3)男女別

女性が多く項目で不安を強く感じており、男性が女性より不安を感じている比率が高いのは「食中毒」と「生活習慣病」の2項目だけである。(男性は34.8%と18.0%、女性は26.5%

と 15.6%)。男性は自分自身の健康には関心が高いが、子どもの健康や環境汚染への関心は女性より低いといえる。

(4)まとめ

「添加物」、「残留農薬」、「海外食品」の項目について不安が高いという結果になっている。

肉に関する不安についてマスコミなどで騒がれているが、消費者としては心配であるものの比較的冷静に認識していると言える。一方「遺伝子組み換え」、「環境ホルモン」、「環境汚染」など環境に関する項目に対する不安が高い。

「食中毒」は最も基本的な不安全項目と思うが、規制も含め現在では対応がかなりされているためか不安の比率はさほど高くない。しかし次項にあるように食に関して被害のあった項目としては食中毒の事例が最も多い。なお食中毒への不安は高齢者と若者の両方で高いが高齢者は食中毒になった場合、命にかかわる場合もあり理解できるが若者の場合は賞味期限に近い安いものを購入するような傾向があるのだろうか。

8. 食品に関して被害にあったことがありますか？

図 2-8 被害の有無

(1)全体

食品に関して被害にあったことが「ある」人は 11.4%である。各年代とも平均的に 10-13%の比率で被害にあっているが70代だけが 5.9%と低い。

(2)男女別

男性 14.6%、女性 9.9%と男性の比率が高い。

(3)同居人数別

0人が 15.5%、5人以上が 15.0%と高い。

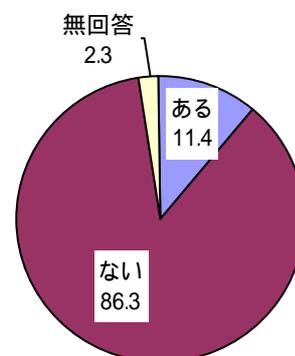
(4)被害の内容

食中毒に関連する事例が多い。食中毒、食あたり、発疹等体に異常があった事例が 98 件中 54 件で 55.1%、食品の腐敗が 32 件で 32.7%、異物の混入が 12 件で 12.2%である。

(5)まとめ

被害にあったことが「ある」比率は 11.4%でありその内容の多くが食中毒である。なお異物混入が 12.2%あった。なお「環境ホルモン」、「遺伝子組み換え」、「BSE」などは、すぐ健康上の問題が出るものではなく、因果関係がわからないため被害事例は出ていない。

異物混入や腐敗も被害の約半数あるが、食品を扱う業者・お店でのさらなる品質向上への取り組みの余地があると思う。



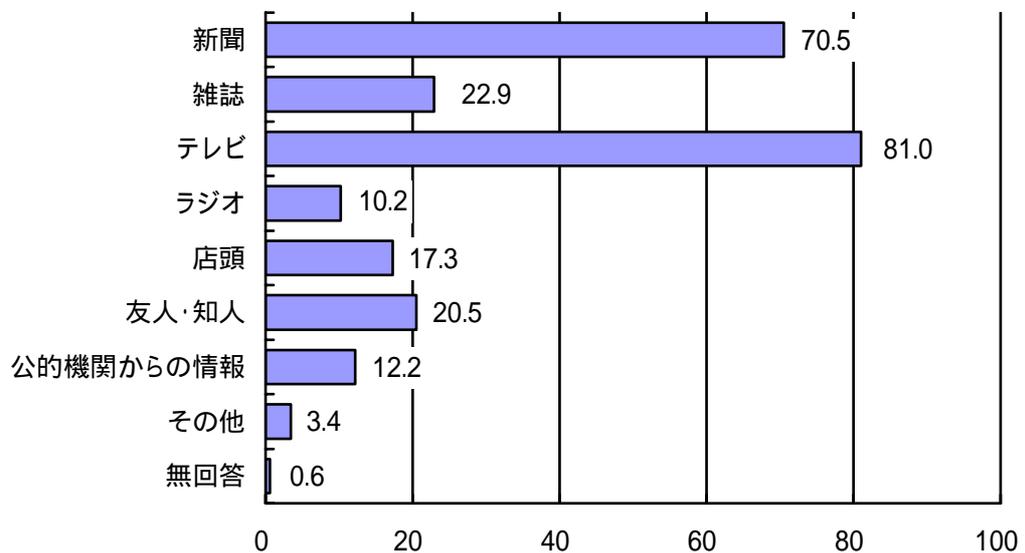
9. あなたは食品の安心・安全に関する情報を主にどこで収集していますか？（複数回答可）

新聞 雑誌 テレビ ラジオ 店頭 友人・知人 公的機関からの情報
その他（ ）

(1)全体

食品の安心・安全に関する情報は、大多数が主に「テレビ」、「新聞」で情報を収集しており、次の情報源として大幅に少数となるが「雑誌」や「友人・知人」と続く。

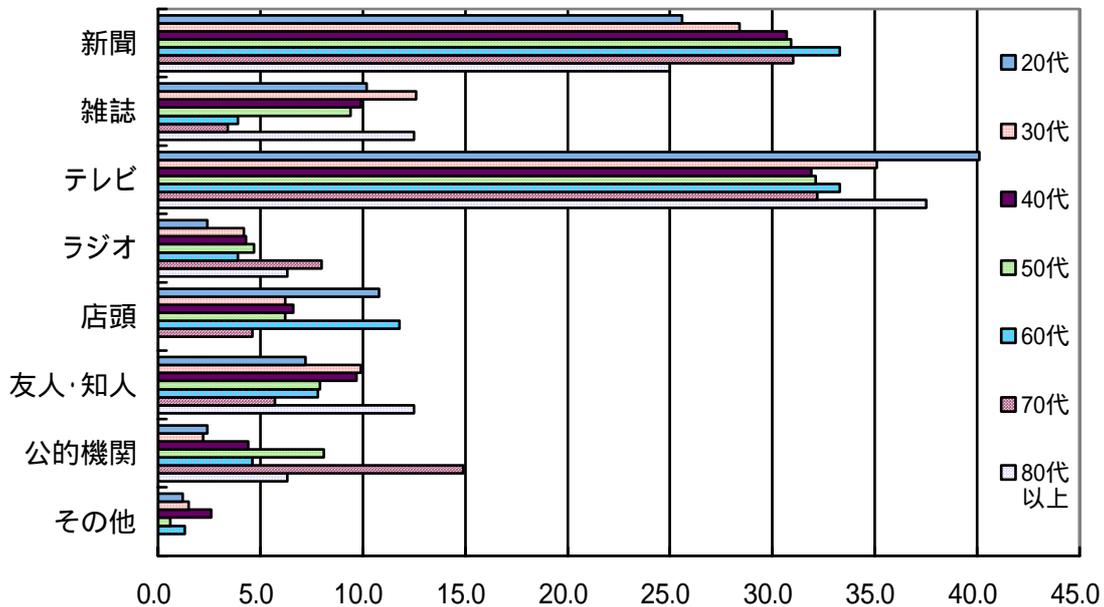
図 2-9 食品の安心・安全に関する情報収集



(2)年代別

年代別に食品の安心・安全に関する情報を主にどこで収集しているかを見ると、どの年代も「テレビ」、「新聞」での情報収集が多数を占める。「公的機関からの情報」を収集している年代は、高年齢者（70代）が多く、若年齢者（20、30、40代）が少ない。「友人・知人」からの情報収集は、高年齢者（80代）が多い。

図 2-10食品の安心・安全に関する情報（年代別）



(3)まとめ

食品の安心・安全に関する情報は、大多数が主に「テレビ」、「新聞」で情報を収集しており、その他の情報源からの情報収集は少ない。また、高齢者（60,70 歳代）は、「テレビ」、「新聞」以外の情報源では、公的機関や友人・知人から食品の安心・安全に関する情報を収集している。

10. 安心・安全の確保のために参考になっている表示はどれですか？（複数回答可）

賞味期限 消費期限 製造日付 無・減農薬、有機表示 無添加物表示 鮮度表示
 示 国産原材料表示 各種認定マーク表示 国内産地名表示 県内産表示 生産者名表示 特に意識していない その他（ ）

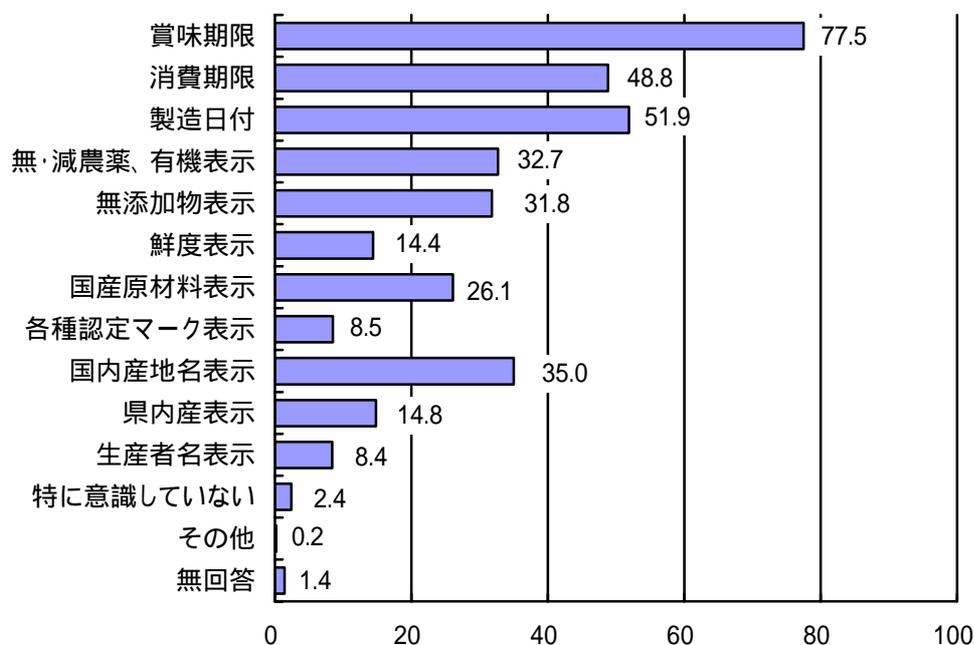
(1)全体

安心・安全の確保のために参考になっている表示については、「特に意識していない」、「その他」「無回答」等が少ないことから、安心・安全の確保のための表示の関心度は高い。多数の消費者が、「賞味期限」、「製造日付」、「消費期限」等の安心・安全の確保のための“期限”表示に大きく興味を示している。

また、「無・減農薬、有機表示」、「無添加物表示」等の無機・有機や添加物の有無についても関心が高い。「国産原材料表示」「国内産地名表示」「県内産表示」などの“産地”の表示で安心・安全の確保の判断している消費者も多い。

「鮮度表示」、「生産者表示」、「各種認定マ-ク表示」での安心・安全の確保の表示は、まだまだ認知されていない。

図 2-11食品の安心・安全の確保のために参考にしている表示

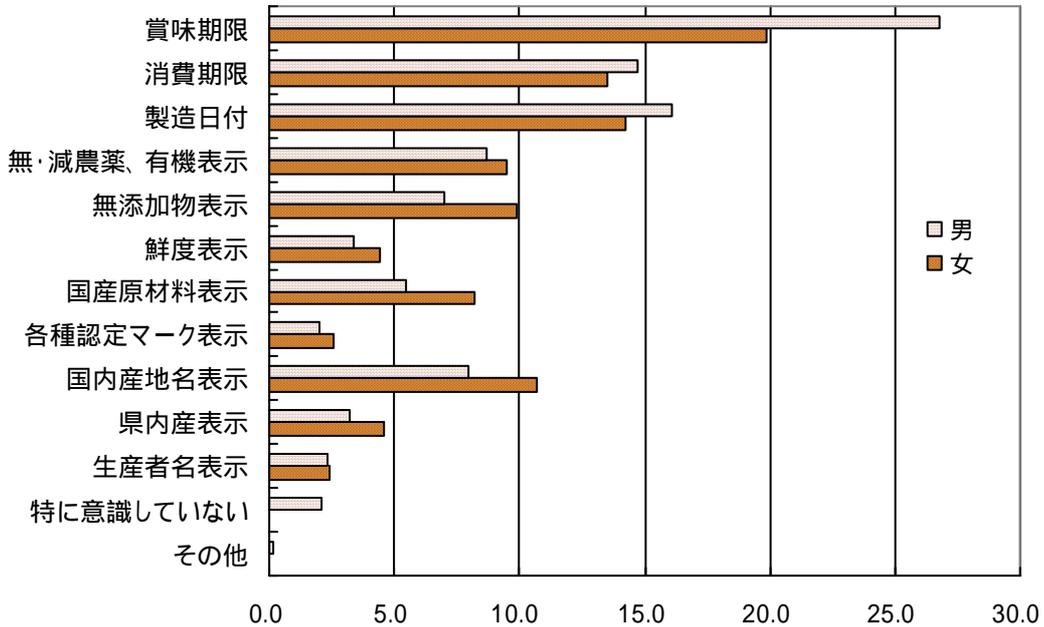


(2)男女別

男女別に見ると、男性は、「賞味期限」、「製造日付」、「消費期限」の“期限”で、安心・安全の確保のために参考にしている表示を重視している。

女性は、「無・減農薬、有機表示」、「無添加物表示」等の“無機・有機や添加物の有無”の表示で、そして、「国産原材料表示」「国内産地名表示」「県内産表示」などの“産地”の表示で安心・安全の確保の判断している消費者も多い。

図 2-12食品の安心・安全の確保のために参考にしている表示（年代別）



(3)まとめ

安心・安全の確保のための表示への関心度は高い。多数の消費者が、「賞味期限」、「製造日付」、「消費期限」等の安心・安全の確保のための“期限”表示に大きく興味を示している。「鮮度表示」「県内産表示」「生産者表示」「各種認定マーク表示」での安心・安全の確保の表示は、まだまだ認知度が低いようである。

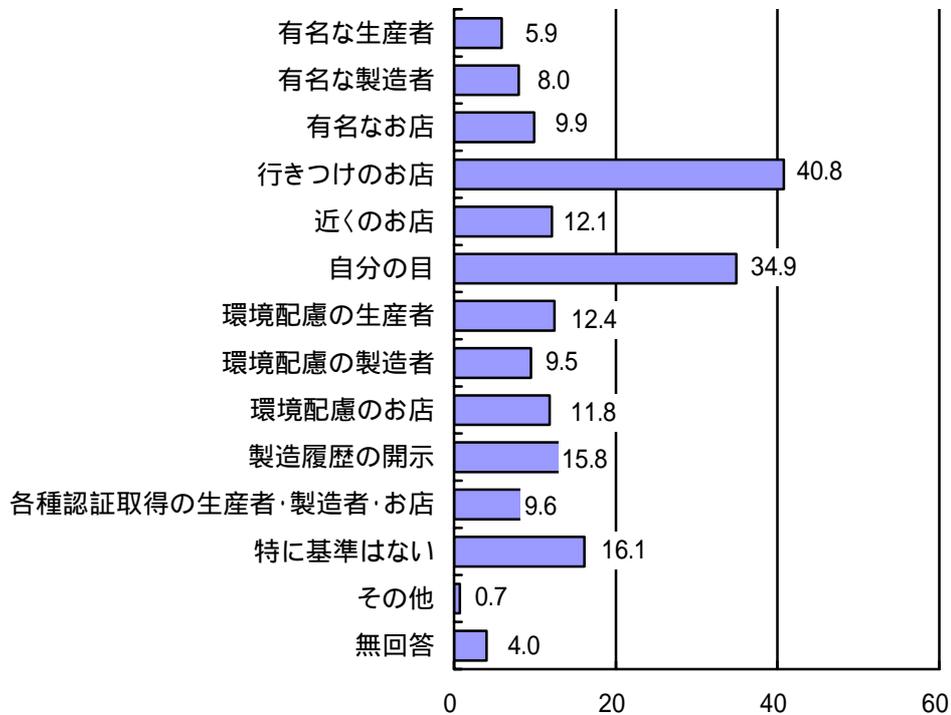
11.安心・安全の確保のための基準にしているものがありますか？（複数回答可）

有名な生産者 有名な製造者 有名なお店 行きつけのお店 近くのお店
 自分の目 環境配慮の生産者 環境配慮の製造者 環境配慮のお店 製造履歴の開示
 各種認証取得の生産者・製造者・お店 特に基準はない その他（ ）

(1)全体

消費者は、主に、「行きつけのお店」や「自分の目」を安心・安全の確保のための基準にしている。

図 2-13 安心・安全確保のための基準

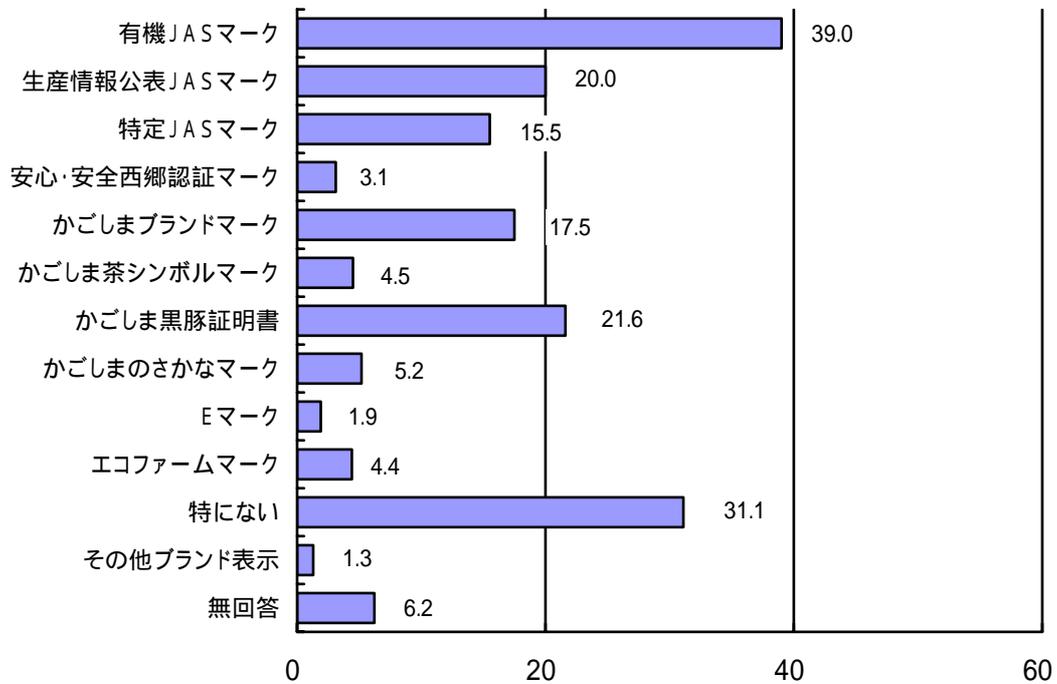


(2)男女別

男女別で分析すると、男性、女性とも、「行きつけのお店」、「自分の目」を安心・安全の確保の基準にしており、また、「特に基準はない」との回答も多く、安心・安全の確保に興味のない男性、女性も多く見受けられる。男性は、「有名な生産者」や「有名な製造者」、「有名なお店」で“知名度”を、女性は、「環境配慮の生産者」、「環境配慮の製造者」、「環境配慮のお店」で“環境面”を、安心・安全の確保のための基準にしている傾向がある。

ていないようである。

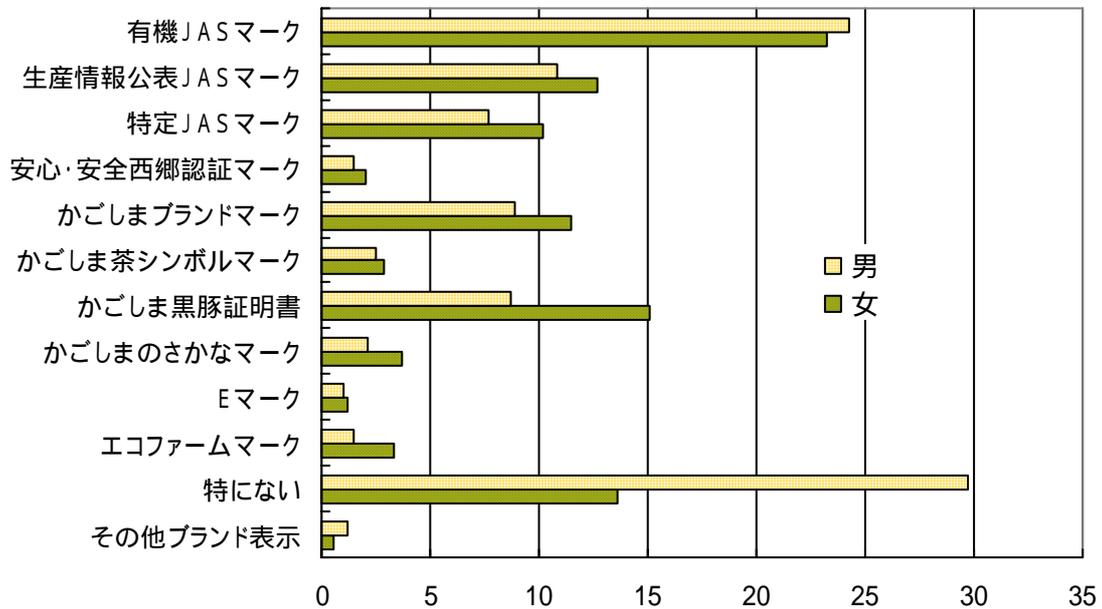
図 2-15 安心・安全を感じる認定マーク



(2)男女別

男女別に見ると、女性は、「有機 JAS マーク」、「かごしま黒豚証明書」、「生産情報公表 JAS マーク」、「かごしまブランドマーク」の認定マーク順で安心・安全を感じている。男性は、「特にない」が多く、その次は「有機 JAS マーク」であり、認定マークで安心・安全を感じないようである。

図 2-16 安心・安全を感じる認定マーク（男女別）



(3) まとめ

安心・安全を感じる認定マークについては、女性は、認定マークで安心・安全を確認しており、男性は、認定マークでは、安心・安全を感じていない人が多数いる。

また、「安心・安全西郷認証マーク」、「かごしま茶シンボルマーク」、「かごしまのさかなマーク」、「Eマーク」、「エコファーマーマーク」等は、安心・安全を感じる認定マークとしての認知度が薄いか男性・女性ともに安心・安全を感じる認定マークとして信頼度がまだまだ低い。

県や市、関係先等は、多くの消費者に、安心・安全を感じる認定マークの信頼性等を広く知らしめる努力が必要と思う。

13.10月から安心・安全の鹿児島農林水産物認証制度が始まりました。この認証制度に付いて一つだけ選んで下さい。

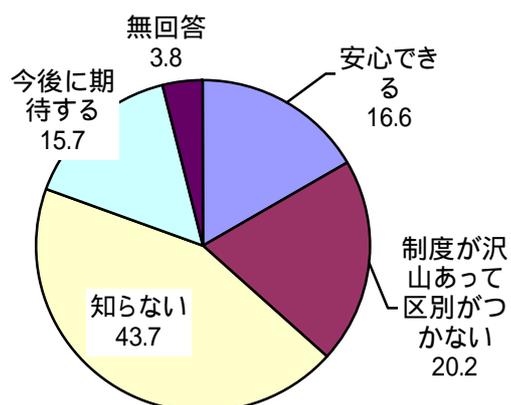
安心できる 制度が沢山あって区別がつかない 知らない 今後に期待する

(1)全体

「知らない」と、「制度が沢山あって区別がつかない」を合せると63.9%と全体の約3分の2

を占めている。つまり制度そのものがそれほど知られていないようだ。逆に、「安心できる」と「今後に期待する」の合計が約3分の1ある。制度そのものの知名度を上げる必要がある。

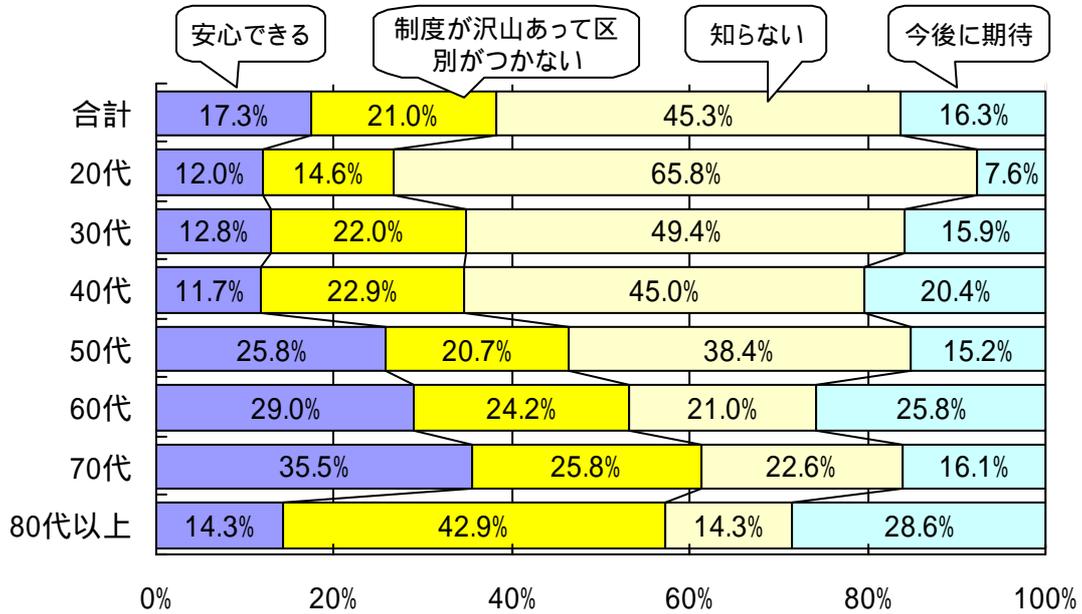
図 2-17 認証制度に対する認識



(2)年代別

年代が若くなるほど制度を知らない傾向にある。20代では65.8%が「知らない」のに対して、70代では22.6%となっている。若い世代ほど認証制度には感心が薄い。「制度が沢山あって区別がつかない」は、年齢による格差はさほどない。

図 2-18 認証制度に対する認識（年代別）



(注) 本グラフは無回答を除いてある

(3)同居者数別

「同居者数なし(独身者が多いと思われる)」が「知らない」と、「制度が沢山あって区別がつかない」の合計が78.6%と高い。つまり独身者ほど制度に対する認識が薄いようだ。

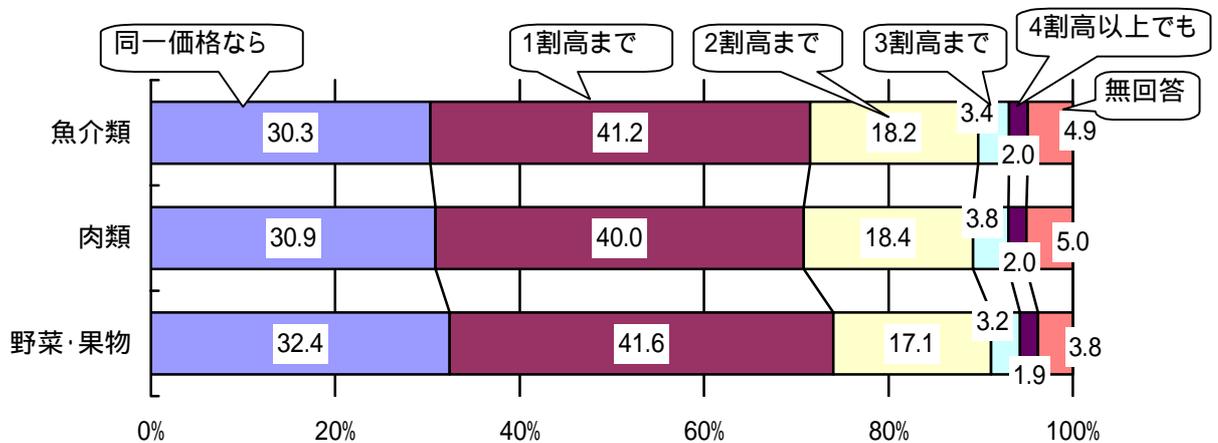
(4)まとめ

平成16年の10月から開始され日数が浅いためか鹿児島農林水産物認証制度そのものがよく知られていない。制度そのものをもっと広報すべきだと思われる。またこのような認証制度に対しては若者ほど関心が薄い、独身者ほど関心が薄い結果となっている。

14. 安心・安全を確保できるなら幾ら払っていいですか？(1)(2)(3)毎に一つ選んで下さい)

- (1) 野菜・果物： 同価格なら、 1割高まで、 2割高まで、 3割高まで、 4割高以上でも
- (2) 肉類： 同価格なら、 1割高まで、 2割高まで、 3割高まで、 4割高以上でも
- (3) 魚貝類： 同価格なら、 1割高まで、 2割高まで、 3割高まで、 4割高以上でも

図 2-19 食物の安心・安全にかけるコスト



14-1. 野菜・果物

(1) 全体

「1割高まで」が41.6%と一番多い、次に「同価格なら」が32.4%となっている。この両者を併せると74.0%とかなり高い比率になる。「2割高までなら」が17.1%であり、せいぜい「2割高までなら」というのが大方の考えである。かなりの人が安全に対するコストとして1割高までと見ている。

(2) 男女別

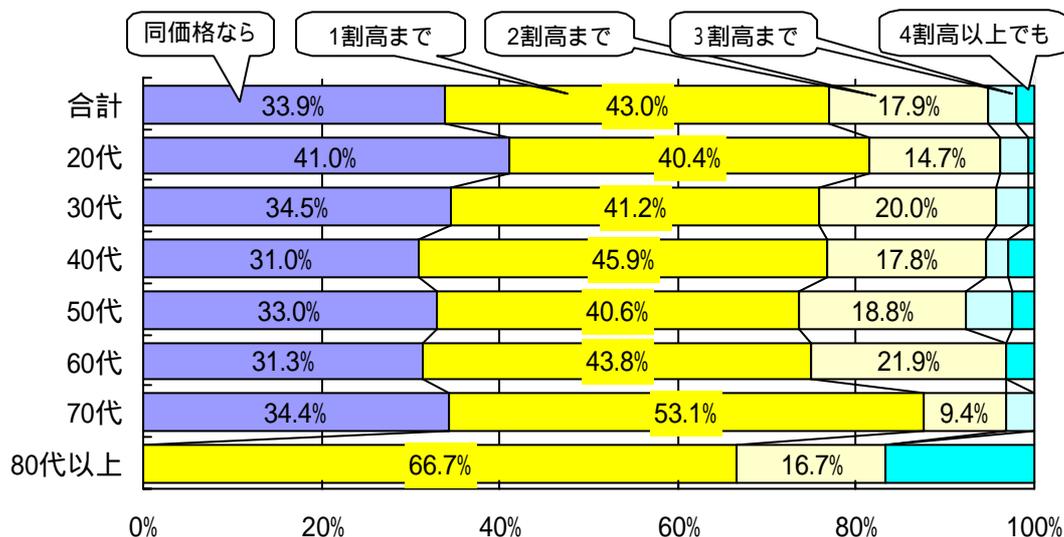
「1割高までなら」に対する比率が、女性のほうが男性より10%程度が大きい。これは女性の方が安全に関心をもっているからと言えよう。「1割高までなら」と「同価格なら」を合せると、男女ともほぼ77%程度となり、男女差は見られない。

(3) 年代別

20代を除いて、どの年代も全体と同じ「1割高までなら」が「同価格なら」より多い。20代はわずかに「同価格なら」のほうが「1割高までなら」よりも多い。若者は安全をお金で買うこ

とに対する認識が薄いようだ。

図 2-20 野菜・果物の安全にかけるコスト（年代別）



（注）本グラフは無回答を除いてある

(4)同居者数別

同居者数5人以上の場合、「同価格なら」のほうが「1割高までなら」より多い。他の年代はすべて全体と同じ傾向となっている。同居者数が多いと安全をお金で買うという意識が薄い結果となっている。

14-2.肉類

(1)全体

「1割高までなら」が40.0%と一番多い。「同価格なら」と合すると70.9%となっている。「2割高までなら」が18.4%となっており、せいぜい2割高までが大方の考え方である。2割高かそれ以上でも買うというのが、野菜・果物が22.9%であるのに比べて、肉類は25.2%と若干高くなっている。これは肉類のほうが野菜・果物に対してより安全でありたいという意識の表れである。これはBSE問題等肉類に関する安全性が焦点になっていることも影響しているようだ。

(2)男女別

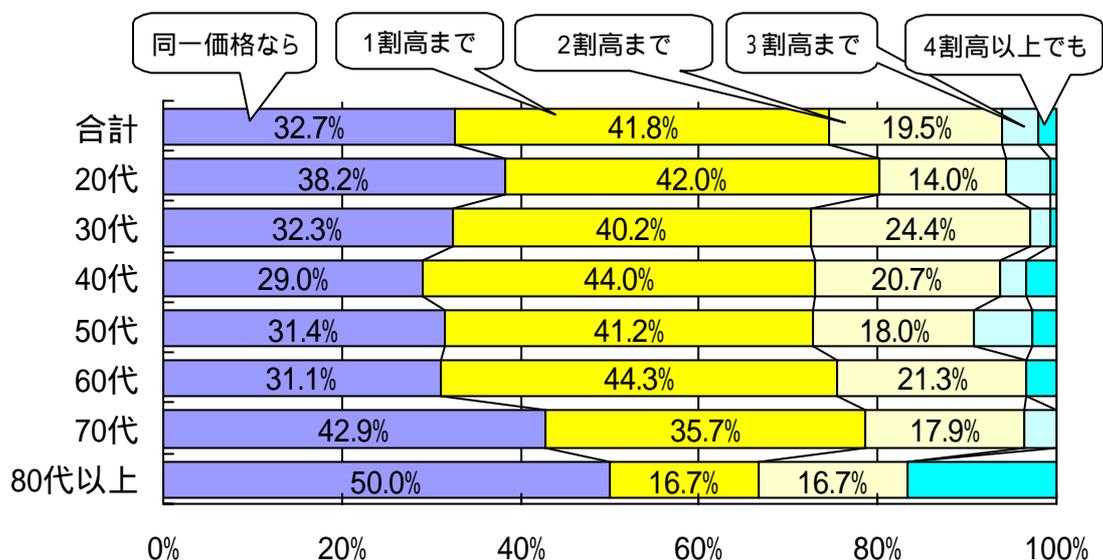
女性のほうが男性より12%程度「1割高までなら」が大きい。女性の方がより安全をお金で買ってもよいと考えているようだ。

(3)年代別

70代を除いて、どの年代も全体傾向に同じように、「1割高までなら」が「同価格なら」より

多い。70代はサンプル数が28と少ないことも影響しているのか？ 20代はこの2つの比率が、野菜の場合と逆転している。さすがに肉類に対しては安全に敏感になるとみえる。

図 2-21 肉類の安全にかけるコスト（年代別）



(注) 本グラフは無回答を除いてある

(4)同居者数別

他の階層はすべて全体と同じ傾向であるのに対して、同居者数 5 人以上と同居者数なし（ほとんどが独身と思われる）が「同価格なら」と「1割高までなら」がほぼ同数となっている。同居者数が多いとまた独身だと安全をお金で買うという意識は薄いようだ。

14-3. 魚介類

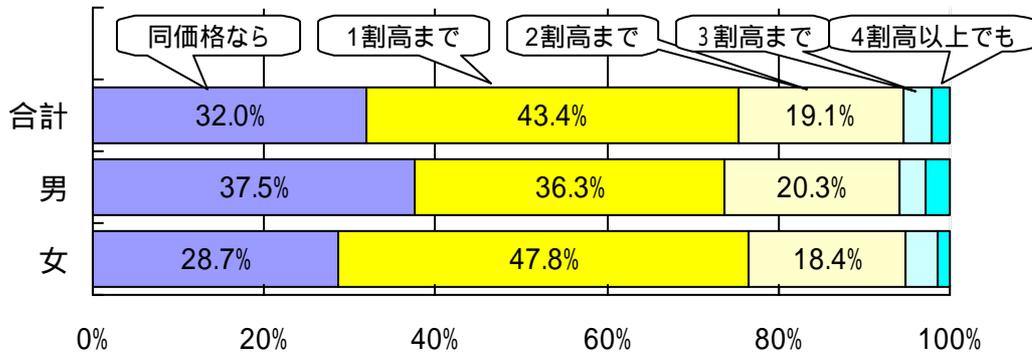
(1)全体

「1割高までなら」が41.2%と一番多い。次に「同価格なら」が30.3%となっている。この両者を合すると71.5%とかなり高い比率になる。「2割高までなら」が18.2%となっており、せいぜい2割高までが大方の考え方である。

(2)男女別

「1割高までなら」に対して、女性のほうが男性より11%程度が大きい。女性の方がより安全をお金で買ってもよいと考えているようだ。

図 2-22 魚介類の安全にかけるコスト（男女別）



(注) 本グラフは無回答を除いてある

(3)年代別

70代を除いて、どの年代も全体傾向に同じように、「1割高までなら」が「同価格なら」より多い。70代はサンプル数が28と少ないことも影響しているのか？ 20代はこの2つの比率が、野菜の場合と逆転している。肉類と同様に魚介類に対しても安全に敏感になるとみえる。

(4)同居者数別

すべての階層において全体と同じ傾向となっている。同居者数5人以上の場合も、魚介類に関しては安全をお金で買うという傾向が強くてている。

14-1～14-3のまとめ

野菜・果物、肉類、魚介類すべてにおいて、「1割高までなら」買うというのが一番多く安全に対するコストをかけてもよいという意識が伺われる。次に「同価格なら」、「2割高までなら」の順となっている。しかし安全をお金で買うといってもせいぜい2割高までとなっている。女性の方が男性よりも安全をお金で買いたいという傾向が強い。また公務員は「2割高までなら」が一番多く、安全をよりお金で買う傾向が強いようだ。また、野菜・果物、肉類、魚介類の3つの間に顕著な差は見られないが、肉類に対してはより安全に対してお金を払ってもいいと考えている傾向が見られる。また家族構成が大きい世帯や独身の世帯は、安全をお金で買うという意識は薄い。

15.安心・安全について生産者、製造者、お店に求めるものは何ですか？（複数回答可）

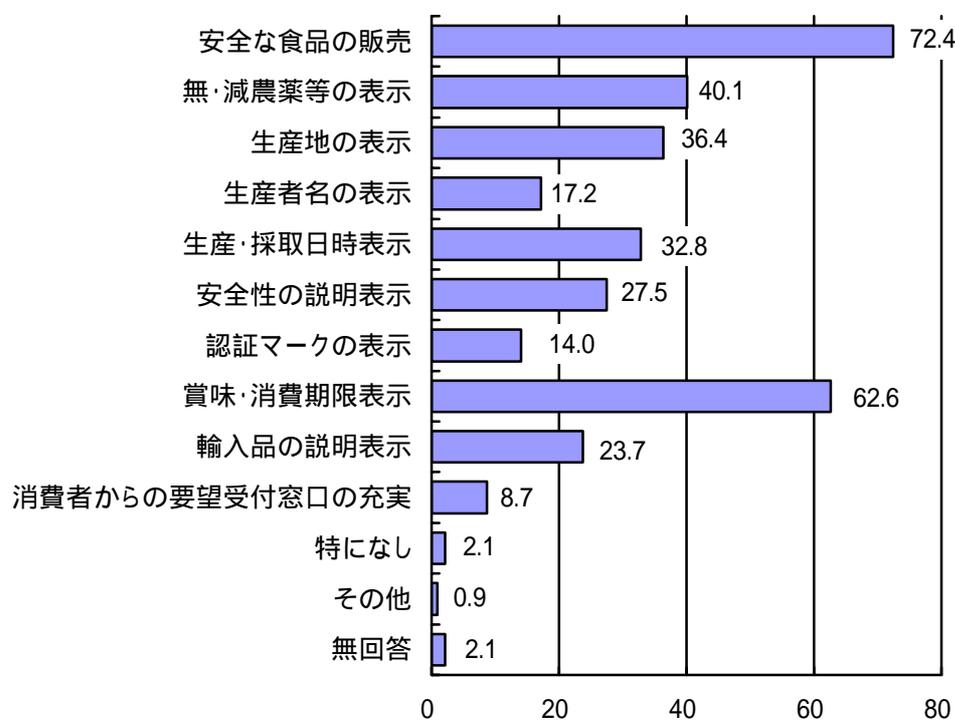
安全な食品の販売 無・減農薬等の表示 生産地の表示 生産者名の表示 生産・採取日時表示 安全性の説明表示 認証マークの表示 賞味・消費期限表示

輸入品の説明表示 消費者からの要望受付窓口の充実 特になし その他
()

(1)全体

「安全な食品の販売」、「賞味・消費期限表示」、「無・減農薬等表示」、「生産地表示」、「生産・採取日表示」の順となっている。安全な食品の販売は当然として、賞味・消費期限の表示が安心・安全にとってもっとも重要だと62.2%の人が考えているようだ。

図 2-23 安心・安全について生産者等に求めるもの



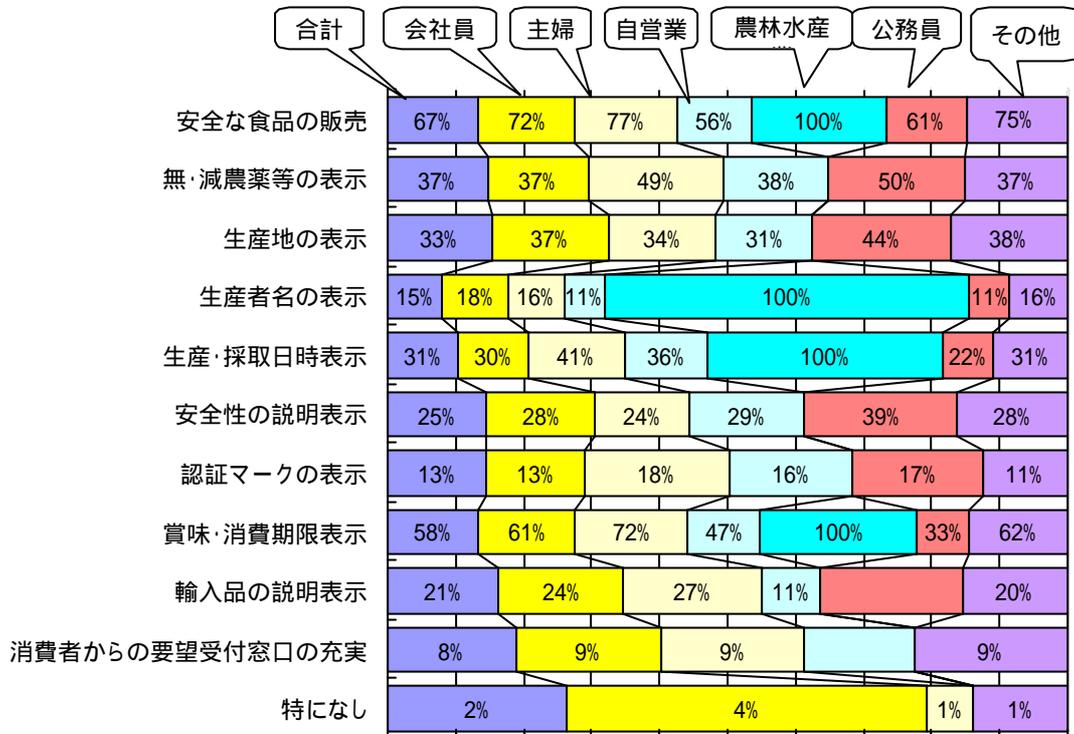
(2)男女別

どの項目においても女性の方が男性よりも比率が高くなっている。すなわち、男性は女性より安全に対する認識が薄い傾向にあるようだ。

(3)職業別

公務員が特別な傾向を示している。公務員の場合、「賞味・消費期限表示」が33.3%と低く、その代わりに「無・減農薬表示」が50.0%と高く、さらに「生産地の表示」が44.4%と高くなっている。

図 2-24 安心・安全について生産者等に求めるもの（職業別）



（注1）グラフのなかの数値は、職業別の個々の階層の人の何%がその項目を選んでいるかを示している。例えば、「安全な食品の販売」に対して、主婦は77%の人がその項目を選択していることを示している。グラフの横方向の構成比はその%の職業別の比になっている。

（注2） 農林水産業はサンプル数が1である。

（注3） 本グラフは無回答を除いてある

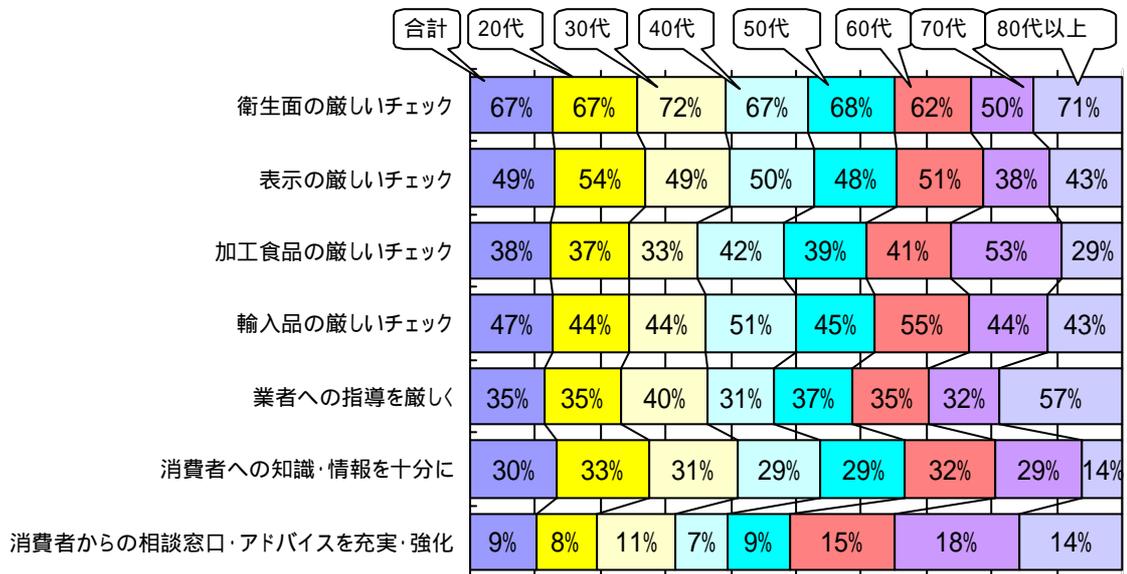
(4)その他のコメントより

「うそのない正しい表示を」、「すべての情報を開示して欲しい」という要望が多く見られ、表示に対する不信、情報不足に対する不満が伺われる。

(5)まとめ

「賞味・消費期限の表示」に対する要望が一番高い。今のところ、一番安心して買い物できる表示となっているようだ。また「農薬等の使用に対する表示」や、「生産地表示」に対する要望も4割近くの人たちが求めており、実現が望まれる。また男性は女性に比べて安全に関する認識が薄いようだ。

図 2-26 安心・安全について行政等に求めるもの（年代別）



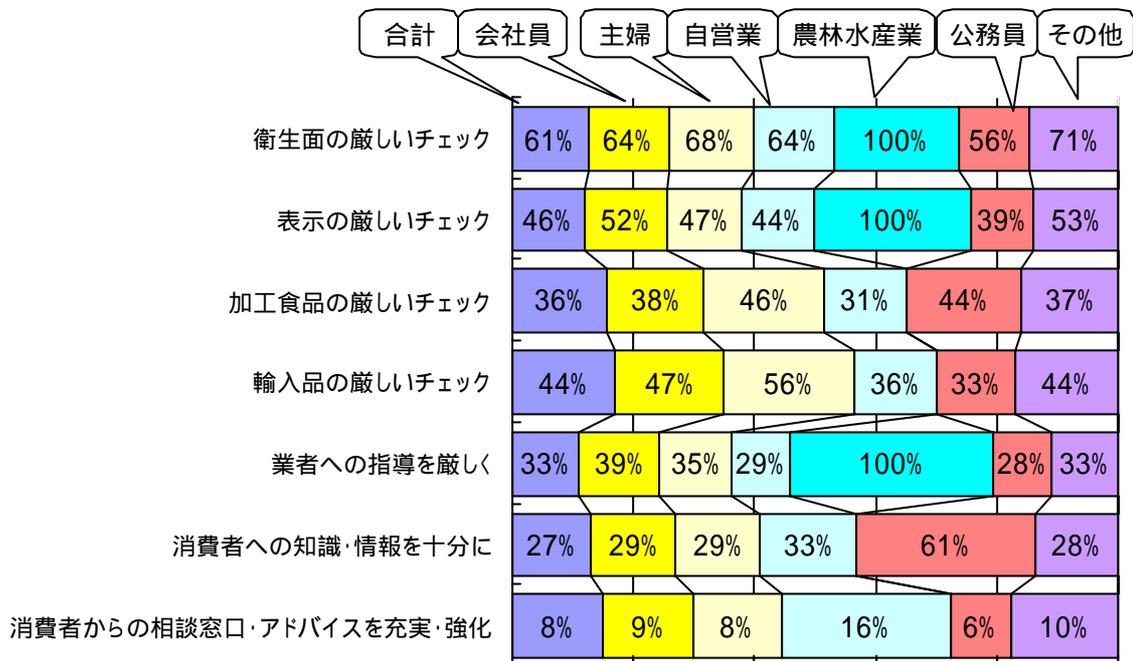
(注1) グラフのなかの数値は、年代別の階層の人の何%がその項目を選んでいるかを示している。例えば、「表示の厳しいチェック」に対して、40代は50%の人がその項目を選択していることを示している。グラフの横方向の構成比はその%の年代別の比になっている。

(注2) 本グラフは無回答を除いてある

(4)職業別

どの階層もほとんど同じ傾向を示している。ただし公務員が特徴的な傾向になっており、「消費者への知識・情報を十分に」が1位となっている。

図 2-27 安心・安全について行政等に求めるもの（職業別）



(注1) グラフのなかの数値は、職業別の階層の人の何%がその項目を選んでいるかを示している。例えば、「表示の厳しいチェック」に対して、主婦は47%の人がその項目を選択していることを示している。グラフの横方向の構成比はその%の職業別の比になっている。

(注2) 農林水産業はサンプル数が1である。

(注3) 本グラフは無回答を除いてある

(5) 買い物頻度別

週に1回より少ない人の場合が、「輸入品の厳しいチェックを」が極めて少なかった。

(6) その他のコメントより

「違法販売店の広報強化」、「アメリカの言いなりにならない」、「製造過程などのチェック」、「食品添加物の規制をもっと強力に」、「とりしまる行政側に問題がある」などの意見があった。

(7) まとめ

「衛生面の厳しいチェック」が一番多かった。これは雪印乳業の集団食中毒事件などから衛生面に対する不安が現れたものであろう。次に「表示の厳しいチェック」が多かったが、これは賞

味期限・消費期限が書き換えられているのではないかと不安、産地表示に対する不信の現れとみることができよう。次に「輸入品の厳しいチェック」が多かったが、国産品ならある程度安心できるが、輸入品に対しては知らない異国の地で、どのような原料をどうやって加工しているか分からないという不安から来ているものであろう。海外製品に対しては、より詳しい情報開示が望まれる。

17. 食の安心・安全の今後について要望することは？（複数回答可）

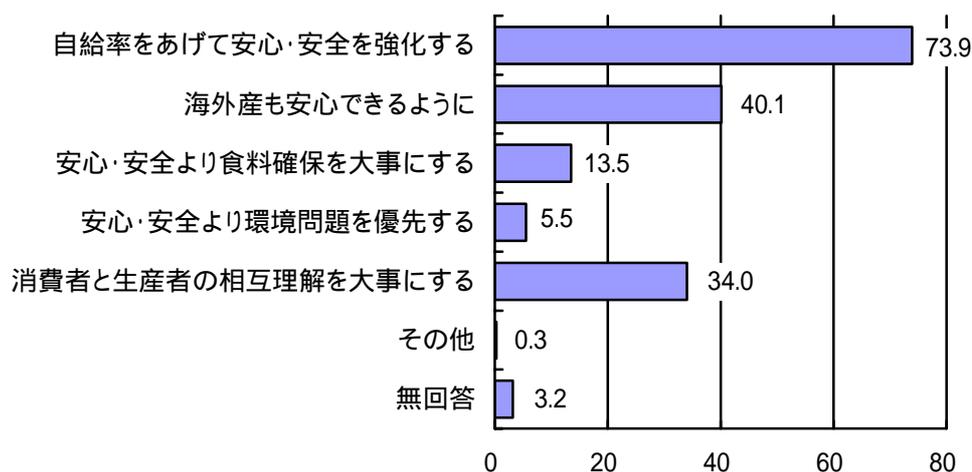
- 自給率を上げて安心・安全を強化する
- 海外産も安心できるようにする
- 安心・安全より食料確保を大事にする
- 安心・安全より環境問題の方を優先する
- 消費者と生産者の相互理解を大事にする
- その他（ ）

(*)自給率：日本の自給率は30%と言われ世界的な食糧危機になったら大変な影響を受ける。

(1)全体

「自給率を上げて安心・安全を強化する」を選んだ人が73.9%と3/4を占めた。続いて「海外産も安心できるようにする」が40.1%、「消費者と生産者の相互理解を大事にする」が34.0%で「安心・安全より食料確保を大事にする」13.5%や「安心・安全より環境問題を優先する」5.5%を大きく上回った。

図 2-28 今後の要望



(2)男女別

「自給率を上げて安心・安全を強化する」を選んだ人の割合が女性が6.6ポイント高いほかは大きな差はない。

(3)年代別

30代で「自給率を上げて安心・安全を強化する」が他年代よりやや低く「海外産も安心できるようにする」が平均より5ポイント高い。「安心・安全より食料確保を大事にする」は80代、「安心・安全より環境問題を優先する」は70代で他年代より高くなっている。また「消費者と生産者の相互理解を大事にする」は20代で低く70代が高くその差が20ポイントに達する。

(4)職業別

「安心・安全より食料確保を大事にする」が自営業が高く公務員が低い、「消費者と生産者の相互理解を大事にする」が主婦が26.0%と低いのに対し公務員が61.1%と高いのが特徴的である。

(5)同居者数別

同居者数による差はあまり小さくなく「自給率を上げて安心・安全を強化する」が同居者数が多くなるほど高くなることと、同居者数が5人以上で「安心・安全より環境問題を優先する」が14.3%と高いのが目立つ。

(6)買物頻度別

買物頻度による傾向の差は小さく、職業別の主婦層と共通すると見られるが「消費者と生産者の相互理解を大事にする」が毎日買物する人が30.7%なのに対し、週1回より少ない人が40.0%と高い。

(7)まとめ

食料自給率が低いことに対する関心が非常に高く、自給率を上げる必要があるとの認識が感じられる。一方、海外産に対する期待も高く、国内産の価格に対する警戒心もあるのではないかと。主婦層および毎日買物する層に「消費者と生産者の相互理解を大事にする」との理解者が少ないのは、不信感の表れであるとすれば深刻な問題である。

18.自由意見

(1)全体

903件中84件の記入があった(9.3%)。大きく分類すると、表示の信頼性に関する意見が29件(34.5%)と多い。次いで安心・安全そのものに関するコメントが14件、自給率に関する意見と農薬・添加物に関する意見が9件となっている。

少数意見であるが「つい安いものを買ってしまう」とか「安くて美しいものを求める私達の意識が悪いのでしょうか？」など正直な感想も寄せられた。

また一部グループだと推定されるがアンケート結果のフィードバック・公表の要望も4件寄せられている。

(2)まとめ

表示の信頼性即ち虚偽の表示の問題は、事業者の社会的責任(CSR)であり、消費者がこれを確

認するにはトレーサビリティの完全導入しか歯止めがないが、そのことはコストの上昇を意味し、双方にとって不幸である。そのことを踏まえて消費者と生産者、加工業者、流通業者の信頼の醸成が望まれる。

トレーサビリティシステムの認証業務を請負うリーファース社長によると、「生産者と消費者の思いにすれ違いがある。消費者はなるべく新鮮なものを手に入れようと、賞味期限の表示に過度に頼って商品を選んでいる。生産者はそれを消費者のわがままと思いつつも、賞味期限を最新にしようと夜中まで操業している」という。この不幸な関係を解消する必要がある。

安心・安全の問題は消費者は100%を望みがちだが、コストの面からそれは無理な要求である。現在の「食の安心・安全」対策は基本的には2001年の国内でのBSE発生に端を発したものである。「国内でのBSE発生は有り得ない」としていたために信用を失ったのであり、「例えBSEが発生しても国内で販売される牛肉は食べても安全」としておけばあれほどの問題は起きなかったであろうし、今も話題の全頭検査問題もこじれなかったのではないか。即ちコストと安全性のバランスの目標値を明確にして置くことが出発点ではないだろうか。安心は気持ちの問題があるのでより難しいが、これもトレーサビリティ確保のコストとの見合いで妥協点が探れるものと考ええる。

自給率の問題は複雑である。自給率が上がることに越したことはない。そのことに殆ど反対はないだろう。しかし、現状では進めようとするコスト上昇は避けられない。アンケートでも見られるように認めても2割高までで9割を越している。果してそれだけでどの程度の自給率まで上げられるだろうか？生産性を上げるための試みはずっと採られてきているが、自給率は下がりっぱなしである。国、地方自治体、民間、消費者すべてを含めた抜本的な対策の変更が求められる問題であろう。根本的には食料の自給率だけが単独で高められるものなのか、まで考える必要がある。石油の輸入が止まれば日本経済は立ち行かない。食料の自給率さえ確保すれば生き延びられるだろうか？食料も作れない、と考えなければならぬのではないだろうか。

農薬の問題は少なくとも国産品では心配し過ぎではなかろうか？現在の使用レベルでは人体への直接的な影響は極めて少ないはずである。無農薬もしくは有機栽培では日本の需要を賄いきれないと聞く。ある程度の農薬を使わないと自給率はますます下がることになる。環境ホルモンの影響を考えると使用量は少ないに越したことは無いだろうが、投薬基準を守る限りにおいてはあまり大きな問題とはならないと思われる。

いずれにしても「食の安心・安全」について関心が高いことは間違いないので、正しい情報の発信、流通が望まれる。その点でマスコミや自治体の責任は重いが、消費者の正しい理解も必須の条件であろう。

第3章 食の安心・安全調査アンケートまとめ

食の安心・安全調査アンケートの結果は、特に意外性のあるものは少なかったが消費者 903 名の貴重な意見の集約であり価値のあるものと思う。

特に食品について不安に思う人が 86.5%という結果を真摯に受け止め、業界・行政での対応が望まれる。特に女性・主婦・同居人数の多い人が食の安心・安全について不安を感じ関心も高い。これらの消費者の声を十分聞き取り、食の安心・安全がより一層確保される制度づくり・風土づくりが必要である。

国の掲げる「産地から食卓まで」の安心・安全の確保は、これからの取組み次第と言えよう。

1. 食品の購入時における安心・安全の優先度

食品を購入する時優先する項目では「新鮮さ」が最も高く 85.5%である。次いで「割安感」(49.5%)、「おいしい」(46.1%)であり「無添加・有機など原材料へのこだわり」が 28.7%である。また「国内産」・「地元産」が 44.5%、21.8%である。消費者は国内産・地元産を含めた「新鮮さ」にかなりこだわり安心・安全を見極めているといえる。

ただ「新鮮さ」が「割安」と比較して 36 ポイントも高い調査結果が出ているものの、現実的には新鮮なものでも価格が高ければ購入されない。「新鮮で価格が適切なもの」を「割安で新鮮さが感じにくいもの」より優先するということであろう。

「国内産」と「地元産」の 2 倍の差に見られるように、「地元産」の「新鮮」、「安心」は評価されているものの、「おいしい」、「安い」は評価が低く、「愛着がある」も認められていない。これは地産地消(安心・安全)を標榜する上で大きな問題点と映る。元々、生産量が地元消費量を上回っているので、地産地消と言っても移出分が多いのは仕方がないが、「かごしまブランド」も県内消費者向けではなく、生産者、県外向けになっていると感じられる。各産地からどれだけ各消費地へ出荷されているのか、統計もないと聞く。地元食材がもっと地元消費者に豊富に届くための仕組み・取組みが必要ではないか。それによって地元食材が地元消費者に新鮮で安心でおいしくて安く提供され、愛着を持たれることが、「地産地消」、「安心・安全」の本来の姿だと思う。

2. 食品に対する不安の感じ方と内訳

食品に対して「不安に思う」人が 86.5%と非常に高い。長野県世論調査協会「長野県県民意識調査」(H15.2-3 調査)でも 84.4%と高い率であり全国的に業界・行政の取組みが緊急の課題であることを示している。

どのような影響に不安を感じるかについては「自分や家族の健康への影響」を不安に思う人が 78.3%と高く、「環境問題」が 32.1%、「子孫への影響」が 21.4%である。

また不安の誘因としては「添加物」が 65.6%、「残留農薬」が 53.9%と高い。全国農業協同組合連合会「主婦 300 人の食に関する調査」(H14.5-H15.3 調査)でもそれぞれ 52%、46%と上位である。

また「遺伝子組み換え」、「環境ホルモン」、「環境汚染」の環境関連項目を「BSE」、「豚コレラ」、「鳥インフルエンザ」、「口蹄疫」の食肉関連項目と比べ不安に思う人が多い。食肉に関する不安感が広く報道される中で消費者は比較的冷静に判断しているものと窺える。

なお現実的に食品による被害にあった人は11.4%であり、その内の55.1%が「食中毒」、「食あたり」などであり、不安項目の高い「添加物」、「残留農薬」や「環境ホルモン」、「BSE」などはすぐ健康上の問題が出るものでないため、また因果関係がわからないため実害としては出ていない。

以上のように多くの方が食品に対し不安を覚え、その影響を心配している。業界・行政では消費者の不安を払拭できる食品の安心・安全の制度を充実・強化することが急務である。また消費者が正しく食品の安心・安全について理解・判断できるように、食品と健康また食品と環境問題との因果関係の分析や研究を進め、その結果をわかりやすい形で広報したり、説明会・展示会などを開いて啓発していくことが必要と思う。

3. 表示・認証の認識状況

安心・安全への参考としている表示としては、「賞味期限」、「消費期限」、「製造日付」の表示を参考にするとの回答が多く購入時の「新鮮さ」最優先の指向と一致している。

次には「国内産地名表示」、「無添加物表示」、「無・減農薬、有機表示」を参考にする人が多く、購入時の優先度順位と同じ傾向である

「新鮮さ」に関する表示と異なり、「添加物」や「無農薬・有機」表示では物質名を記載されていてもその物質の特性や影響度がわかりにくいとか、無農薬・有機などの定義や健康への影響度・効果がわかりにくいことが食品の安心・安全確保の参考とされにくい要因かと思われる。

また安心・安全の確保のための基準としては、「行きつけの店」、「自分の目」を頼りにする人が多い。「各種認証」を基準とする人は9.6%と少なく各種認証制度をもっと認識してもらい参考とってもらう対策が必要である。

さらに安心・安全を感じる認定マークは「有機」、「生産情報公表」、「特定」の各JASマークが上位であるが、39.0%、20.0%、15.5%である。安心・安全を感じる認定マークが「特にない」が31.1%であり、認証マークの認知度はかなり低い。

また昨年10月に発足した「かごしまの農林水産物認証制度」については、「知らない」、「区別がつかない」人が63.9%である。まだ発足したところであり生産・出荷管理レベルだけでなく、消費者からの疑問やクレームにも速やかに対応できる管理レベルを認証する制度であるので今後期待したい。

いずれにしても表示・認定マーク・認証制度への認知度は低い。表示・認定マーク・認証制度の構築だけでなく、その運用を含めた信頼性の向上と消費者への一層の認知度向上が必須である。

なお各種表示、認定、認証あるいはトレーサビリティの確保にはコストがかかるわけであるが、安心・安全を確保できるなら価格の上昇をやむを得ないとする人は「1割高まで」が40%強、「2割高まで」が20%弱である。しかし「同一価格なら」という人が30%強存在しており、安心・安全は当然のことでありコストはかかるかもしれないが価格は上げて欲しくないという消費者の声も大きいといえる。

4. 食品の安心・安全への要望

消費者が生産者・製造者・お店へ求めるものは「安全な食品の販売」が72.4%、「賞味期限・消費期限表示」が62.6%と高い。他の表示は40%以下であるが消費者への認知度向上と信頼度向上が必要であるといえる。

なお2004年九州経済白書「フードアイランド九州」でもとり上げられ、一時期良く実施されていた生産者の名前と顔写真の表示を最近あまり見かけなくなったが、「生産者名の表示」が17.2%と低いことに現れているようである。

行政・研究機関に求めるものとして「衛生面・表示の厳しいチェック」など監視・指導の強化を望んでいる。「消費者への知識・情報を十分に」という声は29.9%あるが、「消費者からの相談窓口・アドバイスを充実・強化」という項目への要望は9.5%と少ない。消費者は食品の安全性と表示の正しさを不安に思っているため、業者がモラルを高め食品の安心・安全度を高めるために行政・研究機関に対し監視・指導の強化を求めている。もっと消費者に目の向いた行政・研究機関を期待していると思われる。

「消費者への知識・情報を十分に」「消費者からの相談窓口・アドバイスを充実・強化」は監視・指導より低い。単に情報を広報誌やホームページで情報紹介するだけなら認知度向上の効果は小さく期待は低い。食の安心・安全に関する説明会の継続的開催や専門知識のある食品安全インストラクターの育成、消費者と行政を結ぶNPOとの連携・育成を図るような施策をとることにより消費者からの期待も向上するのではないだろうか。

食品の安心・安全の今後に要望することとして「自給率を上げて安心・安全を強化する」という人が最も多い。次に「海外産も安心できるように」である。自給率を上げる必要性は強く感じるものの、現実的には価格の安い海外産をもっと安心できるよう望んでいる。

なおアンケート回答者の9.3%が自由記述を書いており、その内訳では表示の信頼性に関するものが34.5%と高い。例えば「かごしまの農林水産物認証制度」のようなものを構築したとしても、それを運用する人たちのモラルが確保されていない限り消費者の不安はいつまでも消えない。食品にかかわる事業者の社会的責任（CSR）を高めることが必須である。

5 . 食品の安心・安全性を高めるために

これまでアンケート回答結果からの分析を行ってきたが、生産者、製造者、流通業者、行政、研究機関、消費者が連携して食品の安心・安全システムを構築することと業界のモラルを高めることが必須の要件である。

食品に関する業界は消費者の声を真摯に捉え社会的責任を高めていくことが、消費者の信頼を確保し継続的に業績を伸ばしていける基本であることを再認識し、経営を見直していくことが必要である。安心・安全という視点で経営を見直すと共に、地産地消への取組の強化など身の丈に合うシンプルなシステムを導入・活用し、消費者の声に真剣に responding していくことが今後の発展に不可欠であろう。

また消費者も安心・安全を確保するためにもっと表示や認証制度について学習が必要であり、根拠のない情報に惑わされない基準を持つことが望まれる。

そして行政・研究機関は業界への監視・指導力を高めるとともに、食品に対する不安を持ち表示や認証制度を理解できていない消費者に対し、わかりやすく継続した学習の場を作っていくことが必要と思われる。またNPOの育成・連携を通じ消費者の意見・提案を行政に生かす取組みも有効ではないだろうか。

第4章 食の安心・安全に関する取組み・認証マーク・食品表示等基礎知識

1. 食の安心・安全に関する取組み

(1) 国の取組み

2003年5月食品安全基本法を制定、同年7月内閣府に食品安全委員会が設置された。食品安全基本法に基づき、国民の健康の保護を最優先とする新しい食品安全行政がスタートした。農林水産省は新しい食品安全行政に取り組むための指針として「食の安全・安心のための政策大綱」を発表し、年毎に工程表が公表されている。

http://www.maff.go.jp/syoku_anzen/top.htm

大綱の狙いとして「消費者の視点に立った安全・安心な食糧の安定供給」、「政策づくりへの国民の参画」が重要であるという意識改革を進めることとしている。

「産地から食卓まで」というのがキーワードである。

(2) 県の取組み

鹿児島県は2004年4月農政部、林務水産部、保健福祉部が一体となって取組み「食の安心・安全確保連携プロジェクト」を推進する「食の安全推進課」を設置し、同年7月に「鹿児島県食の安心・安全基本方針」を制定、同年10月に「かごしまの農林水産物認証制度」がスタートした。これら一連の施策によって、県内で生産される農林水産物と県内で製造・加工、流通、販売される食品の安全確保を図るとともに、生産者、消費者、食品関連事業者間の意見交換（リスクコミュニケーション）等を通じた「食」に関する情報の共有化、食品の検査体制や食品表示等に係る監視指導体制の強化など、消費者の視点に立った食品安全対策の推進を図る、としている。

<http://www.pref.kagoshima.jp/home/s-anzen/>

尚、2004年11月には「食の安心・安全認証」第1号として「東串良のピーマン（139戸）」が決まり出荷を開始している。

また商工観光労働部では「かごしま食の産業クラスター形成」を目指しており、産学官交流研究会においては「食の安心・安全部会」が地域に根ざした食の安全トータルシステムの構築を目指している。

2. 認証マーク

今回調査した認証マークを表3-1に示す。

今回詳しく調査できなかった認証マークとして他にも次のようなものがある。

公正マーク

牛乳、部分脱脂乳、脱脂乳、加工乳、乳飲料につけられる。全国飲用牛乳公正取引協議会の取り決めに従って適正な表示をしていることを認めるもの。

精米表示検定マーク

袋詰された米に付けられる。販売業者は都道府県知事に袋詰包装の表示内容を届け出、正し

い表示と適正な品質、量の検査を受け、適正であることを証明するもの。

特定保健用食品マーク

特定保健用食品とは「特定の保健の目的で摂取するものに対し、その摂取により当該保健目的が期待できる旨の表示が許可された食品」として厚生労働省の許可を得たもの。整腸効果食品、コレステロール抑制食品、カルシウム吸収促進食品、血圧低下用食品、虫歯予防食品など。

特殊栄養食品マーク

栄養改善法に基づいて厚生労働大臣の許可を得た特殊栄養食品。強化食品と特別用途食品(病人用など)に大別され、栄養成分の表示などが義務付けられる。

JHFA マーク

財団法人日本健康・栄養食品協会の厳しい規格基準を満たす健康食品に付けられる。

制度(マーク)名称と認証基準等	表示方法
<p>かごしまの農林水産物認証制度 認証機関：社団法人鹿児島県農業・農村振興協会 鹿児島県内で生産される農林水産物について、県が「安心・安全」を確保する基準を策定し、その基準に従って生産され、出荷されていることを、審査・認証する。 「安全」とは、生産・栽培基準に適合した生産管理又は栽培管理がなされ、適正に管理された施設等で集出荷が行われていること。「安心」とは、生産履歴等の記録・保存の確実な実施、生産管理責任者等の設置、適正な表示、消費者の信頼を得られる体制が整備されていること。 認証基準は品目毎に安全基準、安心基準が定められる。</p>	
<p>かごしまのさかな認定制度 認定機関：かごしまのさかなづくり推進協議会 品質等が優れ、市場や消費者等のニーズに応えられる等、県内他産地のモデルとなるような団体と魚種を認定する。 主な認定基準は 養殖生産履歴の作成及び開示請求に対応できるシステム構築、漁場改善計画の遵守、県内生産者の模範となるべき先進的な取組の実施。</p>	
<p>ふるさと認証食品認証制度(Eマーク) 認証機関：総合認証委員会 地域の原材料の良さを生かし、地域の文化や技術にこだわりをもって作られた特産品について、品質や表示の基準に適合するものを認証する。 主な認証基準は、県産農産物を原料としていること、製造方法、品質表示について特産品ごとに定めた基準に適合していること</p>	

<p>エコファーマー認定制度 認定機関：県 「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、堆肥等を活用した土作りと化学肥料・化学農薬の低減を一体的に行う「持続性の高い農業生産方式」の導入に関する計画（導入計画：5年後目標）の認定を受けた農業者（エコファーマー）を認定する。 計画認定の主な要件は、土作り及び化学肥料・化学農薬の低減技術の導入と品目毎に定めた目標値のクリア、上記事項を5年後までに作付面積の5割以上で実施。</p>	
<p>かごしまブランド産地指定制度 認証機関：かごしまブランド推進本部会議 一定基準以上の品質と量を確保し、計画的な出荷が行われ、市場や消費者等から高い評価を得ていくような活動を継続して行い、県内他産地のモデルとなるような産地とその品目を「かごしまブランド」として指定する。 主な指定基準は、共販額 - 野菜5億円以上、果樹1～3億円以上、共販率70%以上。</p>	
<p>かごしま茶登録標章制度 指定機関：鹿児島県茶業会議所 宣伝・販売活動を積極的に展開するため、一定基準以上に達した県内産仕上茶にかごしま茶のシンボルマークを添付する。 主な指定基準は、標章茶指定基準に合格し、品質内容・規格が統一されていること、年間を通じて計画的に出荷・販売していること。</p>	
<p>かごしま黒豚証明制度 証明機関：鹿児島県黒豚生産者協議会 産地表示の徹底による「かごしま黒豚」の差別化と銘柄確立を図るため、鹿児島県黒豚生産者協議会員が県内で生産・飼養して出荷した「かごしま黒豚」に「かごしま黒豚証明書」を添付する制度である。</p>	
<p>エコ農産物認証制度（県経済連認証制度） 認証機関：かごしまエコ農産物認証委員会 農業の自然循環機能の維持増進を図るため、化学合成された農薬及び肥料の使用を低減することを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した生産方法を採用して生産した農産物を認証する。 主な認証基準は、エコファーマーであるか又はエコファーマーになることが見込まれること、化学合成農薬、化学肥料ともに栽培期間中に一般的使用量（慣行）の当地比50%以上削減して生産していること。</p>	
<p>JAS マーク（一般 JAS 規格） 認定機関：国の登録を受けた認定機関 農林物資について 食品等の品質の改善 生産の合理化 取引の単純公正化 使用又は消費の合理化、を図りもって公共の福祉の増進に寄与するものである。 規格は 適用の範囲 定義 基準 測定の方法、から構成されており、基準として一般 JAS 規格では、品位、成分、性能その他の</p>	

品質について定めている。	
<p>有機 JAS マーク（有機農産物、有機農産物加工食品） 認定機関：国の登録を受けた認定機関（鹿児島県では NPO 法人鹿児島県有機農業協会など） 農業の自然循環機能の維持増進を図るため、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法を採用した圃場において生産された農産物を認証する。 主な認証基準は、播種または植付け前 2 年以上の間、堆肥等による土作りを行った圃場において生産されること、耕種的防除、物理的防除及び生物的防除又はこれらを適切に組合せた方法のみで実施されていること。</p>	 <p>登録認定機関名</p>
<p>特定 JAS マーク（地鶏肉） 認定機関：国の登録を受けた認定機関（鹿児島県では NPO 法人鹿児島県地鶏協会） 血統、飼育機関、飼育密度等特色ある生産方法等の基準を満たす鶏肉について認証する。 主な認証基準は、血統 - 在来鶏の血液百分率 50%以上、飼育期間 - 80 日以上、飼育方法 - 28 日齢以上平飼い。</p>	
<p>生産情報公表 JAS マーク（生産情報公表牛肉） 認定機関：国の登録を受けた認定機関（現在全国で 7 社のみ） 牛の生産から屠畜まで「牛肉トレーサビリティ法」に基づく生産情報に加え、給餌情報、投薬情報を正確に記録・保管・公表できるものについて認証する。 主な認証基準は、生産情報が正確に記録・保管されていること、加工・販売段階において荷口毎に生産情報を公表できること。</p>	

表 4-1 認証マークと認証基準

3. 食品表示

(1) 表示を取り巻く法律

食品の表示に関わる法律としては「食品衛生法」（厚生労働省）と「農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS 法）」（農林水産省）のほかに、「景品表示法」「計量法」「薬事法」「健康増進法」「不正競争防止法」「容器リサイクル法・資源有効利用法」そして「地方公共団体条例」が絡んでくる。

「食品衛生法」では対象の食品を「すべての飲食物で薬事法で定められていないもの」とし、食品・添加物、器具・容器包装の表示の基準を定めている。施行規則では 14 の品目区分（清涼飲料水、食肉製品、遺伝子組換え食品、添加物など）に分けて表示の基準が定められている。主な表示事項は名称、消費期限又は賞味期限（品質保持期限）、製造所・製造者の住所・氏名など、添加物を含む旨、アレルギー物質を含む旨、保存方法、使用方法など。

「JAS 法」では農林物資の規格を制定して合格品に JAS マークの付与するとともに品質の改善、

生産の合理化、取引の公正化、使用又は消費の合理化を図るとして、品質表示を義務付けている。具体的には「加工食品品質表示基準」と「生鮮食品品質表示基準」がある。主な表示事項は名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法、製造業者等の氏名又は名称及び住所など。

(2)表示ルール

食品衛生法と JAS 法

法律名	食品衛生法	JAS 法	
表示対象	容器包装し販売される食品や添加物	一般消費者向けのすべての飲食料品（業務用は対象外）	
主な表示義務	1. 名称 2. 添加物 3. 消費期限または賞味期限 4. 保存方法 5. 製造所または加工所の所在地 6. 製造者または加工者の氏名 7. その他	加工食品	生鮮食品
		1. 名称 2. 原材料名 3. 内容量 4. 賞味期限 5. 保存方法 6. 原産国名（輸入品の場合のみ） 7. 製造業者等の氏名または名称及び住所 8. その他	1. 名称 2. 原産地 ・輸入品は原産国 ・畜産物は国産の旨、都道府県名、市町村名も可 ・農産物は都道府県名、市町村名 ・水産物は水揚げされた海域、都道府県・水揚港も可 3. その他（解凍、養殖など）
表示の免除例	・設備を設けて飲食させる ・出前 ・表示可能面積が小さい	・設備を設けて飲食させる ・出前 ・表示可能面積が小さい ・生産者が直接販売する ・製造したと同一の施設内で販売する	
備考	容器包装とは、販売の際、そのままの状態ですぐに渡せるもの	切ったり冷凍しただけでは加工食品ではない 容器包装されていないもの（客に渡す際に包装するものなど） については JAS 法のみ適用	

表 4-2 食品衛生法と JAS 法概要

アレルギー表示

必須表示 5 品目：そば、卵、小麦、乳、落花生

推奨表示 19 品目：あわび、いか、オレンジ、えび、かに、いくら、キウイフルーツ、牛肉、鶏肉、豚肉、くるみ、さけ、さば、大豆、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

日本で使用が許可されている食品添加物

指定添加物 338 品目

既存添加物 489 品目

天然香料 約 600 品目

一般飲食物添加物 約 100 品目

食品添加物の表示

食品衛生法では使用したすべての添加物名を、容器包装の見やすい場所に記載することを求

めており、JAS 法では一括表示の原材料欄に、食品、食品添加物の順に記載することになっている。

食品添加物は、原則として物質名を表示するが、分かりにくくなる場合があるため（「L-アスコルビン酸」より「ビタミンC」が分かりやすい）、表示名称についても定められている。

また、8種類の用途に使われるものは、用途名を併せて表示することになっている（「保存料（ソルビン酸K）」、「甘味料（ステビア）」など）。

使用の目的を表す一括名で表示できる14種類の用途も認められている（「香料」、「凝固剤」、「ベーキングパウダー」など）。

表示が免除されるものとして、栄養強化の目的で使用される添加物、加工助剤（食品の完成前に除去されるものなど）、キャリーオーバー（食品の原材料の製造又は加工の過程で使用され、その食品の製造過程では使用されないもので、最終食品に効果を発揮することができる量より明かに少ない場合など）がある。

逆にバラ売りであっても売場に表示が必要な添加物（サッカリンなど）もある。

遺伝子組換え食品の表示

食品として安全が確認された遺伝子組換え農産物（5農産物）とこれを原材料とする加工食品（30食品群）について表示が義務付けられている

5農産物 大豆（枝豆、大豆もやしを含む）、とうもろこし、馬鈴薯、なたね、綿実

「品質保持期限」は「賞味期限」に統一

食品衛生法では品質保持期限を、JAS法では賞味期限を使っていたが、平成15年7月31日に賞味期限に統一された（経過措置は平成17年7月31日まで）。

賞味期限

定められた方法により保存した場合において、期待されるすべての品質の保持が十分に可能であると認められる期限を示す年月日をいう。ただし、当該期限を超えた場合であっても、これらの品質が保持されていることがあるものとする。

品質が保たれる期間がおおむね5日を超えるものに表示する。

美味しく食べられる期限。

卵の賞味期限表示は「生で食べられる期間」を示している。

消費期限

定められた方法により保存した場合において、腐敗、変敗その他品質の劣化に伴い安全性を欠くことになる恐れがないと認められる期限を示す年月日をいう。

弁当や生麺など品質が落ちるのが早い食品に表示される。期限を過ぎたものは、食中毒の発生の恐れがある。

安全に食べられる期限。

一括表示

JAS 法で定められ事項を一括して表示するので一括表示と呼ばれる（加工食品では一括表示が必要で通常、四角で囲まれた欄がある）。他法令で規定された項目も含めて基本的な情報が表示されている。

(3)表示例

生鮮食品（農産物）

名称	さつまいも
原産地	穎娃町

生鮮食品（水産物）

名称	ブラックタイガー（解凍・養殖）
原産地	タイ産

生鮮食品（畜産物）

名称	牛もも肉
原産地	国産

生鮮食品（玄米及び精米）

名称	精米			
原料玄米	産地	品種	産年	使用割合
	複数原料米 国内産 100% 〔鹿児島県 コシヒカリ 16 70%〕 〔宮崎県 ヒノヒカリ 16 30%〕			
内容量	5kg			
精米年月日	平成 17 年 1 月 11 日			
販売者	金峰米穀 株式会社 鹿児島県金峰町池辺 1234 TEL0993-77-1234			

鶏卵

農林水産省規格 （卵重） M 58g～64g 未満 卵重計量責任者 出水太郎	名称	鶏卵（生食用）
	選別包装者	出水養鶏場 鹿児島県出水市平和町 123 番地
	賞味期限	17.3.31
	保存方法	10 以下で保存
	使用方法	生食の場合は賞味期限内に使用し、賞味期限経過後は十分加熱調理して下さい。

加工食品

名称	幕の内弁当	アレルギー ー表示
原材料	ご飯、鶏唐揚げ、煮物（里芋、人参、ごぼう、その他）、焼鯖、スパゲッティ、エビフライ、ポテトサラダ、大根おろし漬、（原料の一部に卵、小麦由来原材料を含む）調味料（アミノ酸等）、pH 調整剤、着色料（カラメル、赤 102）、香料、甘味料（甘草）、保存料（ソルビン酸 K）	
内容量	350g	添加物表示
消費期限	平成 17 年 1 月 11 日	

保存方法	直射日光を避け常温で保存して下さい
製造者	鹿児島食品 鹿児島県鹿児島市山下町1丁目1番地

漬物

名称	たくあん漬
原材料名	だいこん、漬け原材料(米ぬか、食塩、砂糖、とうがらし、鰹削り節)、クエン酸、ウコン色素
原料原産地名	鹿児島県山川町産(だいこん)
内容量	300g
賞味期限	平成17年3月31日
保存方法	10以下で保存して下さい。
製造者	山川食品株式会社 鹿児島県山川町1234番地

牛乳

種類別名称	牛乳	
商品名	公正3.5牛乳	
無脂乳固形分	8.3%以上	
乳脂肪分	3.5%以上	
原材料名	生乳100%	
殺菌	130 2秒間	
内容量	1000ml	
賞味期限	上部に記載	
保存方法	10以下で保存してください	
開封後の取扱	開封後は、賞味期限にかかわらずできるだけ早くお飲みください	
製造所所在地	鹿児島県志布志町志布志123	
製造者	鹿児島乳業(株)志布志工場	

遺伝子組換え食品

品名	大豆加工食品	表示義務
原材料名	大豆(遺伝子組換え)	
内容量	50グラム	
賞味期限	2005.6.30	
保存方法	10度以下で保存	
製造者	薩摩株式会社 鹿児島県薩摩川内市宮崎町1番地	

品名	大豆加工食品	表示義務
原材料名	大豆(遺伝子組換え不分別)	
内容量	50グラム	
賞味期限	2005.6.30	
保存方法	10度以下で保存	
製造者	薩摩株式会社 鹿児島県薩摩川内市宮崎町1番地	

品名	大豆加工食品	任意表示
原材料名	大豆（遺伝子組換えでない）	
内容量	50 グラム	
賞味期限	2005.6.30	
保存方法	10 度以下で保存	
製造者	薩摩株式会社 鹿児島県薩摩川内市宮崎町 1 番地	

添付資料：アンケート用紙および集計データ

「食の安心・安全」消費者アンケート

(社)中小企業診断協会鹿児島県支部

私達、中小企業診断協会鹿児島県支部では毎年地元に着したテーマを取り上げ、地元経済の活性化につながる調査研究事業を実施しています。

昨今、BSEや食品偽装表示などの発生により、食の安心・安全の確保が叫ばれています。そのような中で私達の健康を守るため、生産者・製造者・お店・行政での食品の安心・安全の取組みを促進することが必要となっています。そしてそのことが鹿児島産食品のブランド力を高めることにもつながると思います。

皆様が、日頃食品を購入されている状況また不満、要望などを調査し、食の安心・安全対策をより有効的に促進していくため関連機関へ提言していきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

<記入要領>

選択方式ですので、該当する項目を1つあるいは複数、丸で囲んでください。

性別	男	女					
年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
職業	会社員	主婦	自営業	農林水産業	公務員	その他()	
同居者	なし	1人	2人	3人	4人	5人以上	
住所	鹿児島県	郡・市	町・村				

1 食品の買い物は週に何回くらいしますか？(一つだけ選んで下さい)

毎日 2日に1回 3日に1回 週1回 週1回より少ない

2 食品は主にどこで買いますか？(複数回答可)

ストアー(スーパー) 専門店 デパート 市場 農家 共同購入
その他()

3 食品を買う時に何を優先しますか？(複数回答可)

おいしさ 新鮮さ 割安感 無添加・有機など原材料へのこだわり
使いやすさ 見栄え・見た目 健康への効果 有名ブランド
地元産 国内産 海外産 手に入りやすさ
その他()

4 地元産の食材はどんな点が評価できますか？(複数回答可)

安い おいしい 新鮮 安心 愛着がある
特にない その他()

5 食品について不安に思うことがありますか？(一つだけ選んで下さい)

強く思う 少し思う 特に思わない

6 食品に関してどんな不安を感じていますか？(複数回答可)

自分/家族の健康 子孫への影響 環境問題
特にない その他()

7 食品について不安を感じる項目にはどんなものがありますか？(複数回答可)

食中毒 添加物 残留農薬 遺伝子組換え 環境ホルモン 環境汚染
BSE 豚コレラ 鳥インフルエンザ 口蹄疫
輸入食品 アレルギー 生活習慣病 特にない
その他()

8 食品に関して被害にあったことがありますか？(一つだけ選んで下さい)

ある どのような被害でしょうか？(具体的に:)
ない

添付資料：アンケート用紙および集計データ

9 あなたは、食品の安心・安全に関する情報を主にどこで収集していますか？(複数回答可)

新聞 雑誌 テレビ ラジオ 店頭 友人・知人
 公的機関からの情報 その他()

10 安心・安全の確保のために参考にして表示はどれですか？(複数回答可)

賞味期限 消費期限 製造日付 無・減農薬、有機表示 無添加物表示
 鮮度表示 国産原材料表示 各種認定マーク表示 国内産地名表示
 県内産表示 生産者名表示 特に意識していない
 その他()

11 安心・安全の確保のための基準にしているものがありますか？(複数回答可)

有名な生産者 有名な製造者 有名なお店
 行きつけのお店 近くのお店 自分の目
 環境配慮の生産者 環境配慮の製造者 環境配慮のお店
 製造履歴の開示 各種認証取得の生産者・製造者・お店
 特に基準はない その他()

12 安心・安全を感じる認定マークは何ですか？(複数回答可)

有機 JAS マーク 生産情報公表 JAS マーク 特定 JAS マーク
 安心・安全西郷認証マーク かがしまブランドマーク かがしま茶シンボルマーク
 かがしま黒豚証明書 かがしまのさかなマーク E マーク エコファーマーマーク
 特にない その他のブランド表示()

13 10 月から安心・安全の鹿児島島農林水産物認証制度が始まりました。

この認証制度に付いて一つだけ選んで下さい。

安心できる 制度が沢山あって区別がつかない 知らない 今後に期待する

14 安心・安全を確保できるなら幾ら払っていいですか？((1)(2)(3)毎に一つ選んで下さい)

(1)野菜・果物 同価格なら 1割高まで 2割高まで 3割高まで 4割以上でも
 (2)肉類 同価格なら 1割高まで 2割高まで 3割高まで 4割以上でも
 (3)魚介類 同価格なら 1割高まで 2割高まで 3割高まで 4割以上でも

15 安心・安全について生産者、製造者、お店に求めるものは何ですか？(複数回答可)

安全な食品の販売 無・減農薬等の表示 生産地の表示
 生産者名の表示 生産・採取日時表示 安全性の説明表示
 認証マークの表示 賞味・消費期限表示 輸入品の説明表示
 消費者からの要望受付窓口の充実 特になし
 その他()

16 安心・安全について行政・研究機関などに求めるものは何ですか？(複数回答可)

衛生面の厳しいチェック 表示の厳しいチェック 加工食品の厳しいチェック
 輸入品の厳しいチェック 業者への指導を厳しく 消費者への知識・情報を十分に
 消費者からの相談窓口・アドバイスを充実・強化
 その他()

17 食の安心・安全の今後について要望することは？(複数回答可)

自給率を上げて安心・安全を強化する 海外産も安心できるようにする
 安心・安全より食料確保を大事にする 安心・安全より環境問題の方を優先する
 消費者と生産者の相互理解を大事にする その他()

(*) 自給率：日本の食料自給率は30%と言われ世界的な食料危機になったら大変な影響をうける。

添付資料：アンケート用紙および集計データ

18 自由意見

以上

アンケートへのご協力ありがとうございました。

実際のアンケート用紙は2ページに納めています。

アンケート集計データ

性別

性別	(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1男	339	37.5	37.8
2女	559	61.9	62.2
無回答	5	0.6	
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	898

年齢

年齢	(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
120代	159	17.6	17.8
230代	169	18.7	18.9
340代	249	27.6	27.9
450代	207	22.9	23.2
560代	69	7.6	7.7
670代	34	3.8	3.8
780代以上	7	0.8	0.8
無回答	9	1	
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	894

職業

職業	(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1会社員	365	40.4	44
2主婦	196	21.7	23.6
3自営業	45	5	5.4
4農林水産業	1	0.1	0.1
5公務員	18	2	2.2
6その他	204	22.6	24.6
無回答	74	8.2	
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	829

添付資料：アンケート用紙および集計データ

同居者数

		(S A)		
同居者	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	なし	105	11.6	12.8
2	1人	182	20.2	22.2
3	2人	190	21	23.2
4	3人	185	20.5	22.6
5	4人	114	12.6	13.9
6	5人以上	42	4.7	5.1
	無回答	85	9.4	
	サンプル数 (% [^] -ス)	903	100	818

1. 食品の買物は週に何回くらいしますか？（一つだけ選んで下さい）

		(S A)		
1. 買物は週何回	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	毎日	179	19.8	20.2
2	2日に1回	205	22.7	23.2
3	3日に1回	281	31.1	31.8
4	週1回	149	16.5	16.9
5	週1回より少ない	70	7.8	7.9
	無回答	19	2.1	
	サンプル数 (% [^] -ス)	903	100	884

2. 食品は主にどこで買いますか？（複数回答可）

		(M A)		
2. どこで買う	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	ストア（スーパー）	856	94.8	95.3
2	専門店	67	7.4	7.5
3	デパート	94	10.4	10.5
4	市場	18	2	2
5	農家	13	1.4	1.4
6	共同購入	77	8.5	8.6
7	その他	58	6.4	6.5
	無回答	5	0.6	
	サンプル数 (% [^] -ス)	903	100	898

3. 食品を買うときに何を優先しますか？（複数回答可）

		(M A)		
3. 何を優先	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	おいしい	416	46.1	46.2
2	新鮮さ	772	85.5	85.7
3	割安感	447	49.5	49.6
4	無添加・有機など原材料へのこだわり	259	28.7	28.7
5	使いやすさ	86	9.5	9.5

添付資料：アンケート用紙および集計データ

6見栄え・見た目	46	5.1	5.1
7健康への効果	219	24.3	24.3
8有名ブランド	15	1.7	1.7
9地元産	197	21.8	21.9
10国内産	402	44.5	44.6
11海外産	4	0.4	0.4
12手に入りやすい	58	6.4	6.4
13その他	14	1.6	1.6
無回答	2	0.2	
サンプル数(％ [^] -入)	903	100	901

4. 地元産の食材はどんな点が評価できますか？（複数回答可）

4. 地元産の評価できる点		(M A)	
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1安い	195	21.6	21.8
2おいしい	226	25	25.3
3新鮮	665	73.6	74.4
4安心	439	48.6	49.1
5愛着がある	155	17.2	17.3
6特でない	58	6.4	6.5
7その他	5	0.6	0.6
無回答	9	1	
サンプル数(％ [^] -入)	903	100	894

5. 食品について不安に思うことがありますか？（一つだけ選んで下さい）

5. 不安に思う		(S A)	
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1強く思う	185	20.5	20.6
2少し思う	596	66	66.4
3特に思わない	116	12.8	12.9
無回答	6	0.7	
サンプル数(％ [^] -入)	903	100	897

6. 食品に関してどんな不安を感じていますか？（複数回答可）

6. どんな不安		(M A)	
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1自分/家族の健康	707	78.3	79.2
2子孫への影響	193	21.4	21.6
3環境問題	290	32.1	32.5
4特でない	71	7.9	8
5その他	13	1.4	1.5
無回答	10	1.1	
サンプル数(％ [^] -入)	903	100	893

添付資料：アンケート用紙および集計データ

7. 食品について不安を感じる項目にどんなものがありますか？（複数回答可）

7. 不安項目		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 食中毒	267	29.6	29.9	
2 添加物	592	65.6	66.4	
3 残留農薬	487	53.9	54.6	
4 遺伝子組換え	258	28.6	28.9	
5 環境ホルモン	196	21.7	22	
6 環境汚染	198	21.9	22.2	
7 B S E	227	25.1	25.4	
8 豚コレラ	130	14.4	14.6	
9 鳥インフルエンザ	156	17.3	17.5	
10 口蹄疫	55	6.1	6.2	
11 輸入食品	349	38.6	39.1	
12 アレルギー	127	14.1	14.2	
13 生活習慣病	148	16.4	16.6	
14 特にない	28	3.1	3.1	
15 その他	5	0.6	0.6	
無回答	11	1.2		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	892	

8. 食品に関して被害にあったことがありますか？（一つだけ選んで下さい）

8. 被害		(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 ある	103	11.4	11.7	
2 ない	779	86.3	88.3	
無回答	21	2.3		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	882	

9. あなたは食品の安心・安全に関する情報を主にどこで収集していますか？（複数回答可）

9. 情報収集		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 新聞	637	70.5	70.9	
2 雑誌	207	22.9	23.1	
3 テレビ	731	81	81.4	
4 ラジオ	92	10.2	10.2	
5 店頭	156	17.3	17.4	
6 友人・知人	185	20.5	20.6	
7 公的機関からの情報	110	12.2	12.2	
8 その他	31	3.4	3.5	
無回答	5	0.6		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	898	

添付資料：アンケート用紙および集計データ

10. 安心・安全の確保のために参考にしている表示はどれですか？（複数回答可）

10. 参考表示		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 賞味期限	700	77.5	78.7	
2 消費期限	441	48.8	49.6	
3 製造日付	469	51.9	52.7	
4 無・減農薬、有機表示	295	32.7	33.1	
5 無添加物表示	287	31.8	32.2	
6 鮮度表示	130	14.4	14.6	
7 国産原材料表示	236	26.1	26.5	
8 各種認定マーク表示	77	8.5	8.7	
9 国内産地名表示	316	35	35.5	
10 県内産表示	134	14.8	15.1	
11 生産者名表示	76	8.4	8.5	
12 特に意識していない	22	2.4	2.5	
13 その他	2	0.2	0.2	
無回答	13	1.4		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	890	

11. 安心・安全の確保のための基準にしているものがありますか？（複数回答可）

11. 基準項目		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 有名な生産者	53	5.9	6.1	
2 有名な製造者	72	8	8.3	
3 有名なお店	89	9.9	10.3	
4 行きつけのお店	368	40.8	42.4	
5 近くのお店	109	12.1	12.6	
6 自分の目	315	34.9	36.3	
7 環境配慮の生産者	112	12.4	12.9	
8 環境配慮の製造者	86	9.5	9.9	
9 環境配慮のお店	107	11.8	12.3	
10 製造履歴の開示	143	15.8	16.5	
11 各種認証取得の生産者・製造者・お店	87	9.6	10	
12 特に基準はない	145	16.1	16.7	
13 その他	6	0.7	0.7	
無回答	36	4		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	867	

12. 安心・安全を感じる認定マークは何ですか？（複数回答可）

12. 認定マーク		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 有機 J A S マーク	352	39	41.6	
2 生産情報公表 J A S マーク	181	20	21.4	
3 特定 J A S マーク	140	15.5	16.5	

添付資料：アンケート用紙および集計データ

4	安心・安全西郷認証マーク	28	3.1	3.3
5	かごしまブランドマーク	158	17.5	18.7
6	かごしま茶シンボルマーク	41	4.5	4.8
7	かごしま黒豚証明書	195	21.6	23
8	かごしまのさかなマーク	47	5.2	5.5
9	Eマーク	17	1.9	2
10	エコファームマーク	40	4.4	4.7
11	特にない	281	31.1	33.2
12	その他ブランド表示	12	1.3	1.4
	無回答	56	6.2	
	サンプル数(％ [^] -入)	903	100	847

13. 10月から安心・安全の鹿児島農林水産物認証制度が始まりました。
この認証制度に付いて一つだけ選んで下さい。

13. 鹿児島農林水産物認証制度		(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1	安心できる	150	16.6	17.3
2	制度が沢山あって区別がつかない	182	20.2	20.9
3	知らない	395	43.7	45.5
4	今後に期待する	142	15.7	16.3
	無回答	34	3.8	
	サンプル数(％ [^] -入)	903	100	869

14. 安心・安全を確保できるなら幾ら払ってもいいですか？

14-1. 野菜・果物		(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1	同価格なら	293	32.4	33.7
2	1割高まで	376	41.6	43.3
3	2割高まで	154	17.1	17.7
4	3割高まで	29	3.2	3.3
5	4割高以上でも	17	1.9	2
	無回答	34	3.8	
	サンプル数(％ [^] -入)	903	100	869

14-2. 肉類		(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1	同価格なら	279	30.9	32.5
2	1割高まで	361	40	42.1
3	2割高まで	166	18.4	19.3
4	3割高まで	34	3.8	4
5	4割高以上でも	18	2	2.1
	無回答	45	5	
	サンプル数(％ [^] -入)	903	100	858

添付資料：アンケート用紙および集計データ

14-3.魚介類		(S A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 同価格なら	274	30.3	31.9	
21 割高まで	372	41.2	43.3	
32 割高まで	164	18.2	19.1	
43 割高まで	31	3.4	3.6	
54 割高以上でも	18	2	2.1	
無回答	44	4.9		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	859	

15. 安心・安全について生産者、製造者、お店に求めるものは何ですか？ (複数回答可)

15. 要求・要望		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 安全な食品の販売	654	72.4	74	
2 無・減農薬等の表示	362	40.1	41	
3 生産地の表示	329	36.4	37.2	
4 生産者名の表示	155	17.2	17.5	
5 生産・採取日時表示	296	32.8	33.5	
6 安全性の説明表示	248	27.5	28.1	
7 認証マークの表示	126	14	14.3	
8 賞味・消費期限表示	565	62.6	63.9	
9 輸入品の説明表示	214	23.7	24.2	
10 消費者からの要望受付窓口の充実	79	8.7	8.9	
11 特になし	19	2.1	2.1	
12 その他	8	0.9	0.9	
無回答	19	2.1		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	884	

16. 安心・安全について行政・研究機関などに求めるものは何ですか？ (複数回答可)

16. 行政・研究機関		(M A)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%	
1 衛生面の厳しいチェック	607	67.2	68.7	
2 表示の厳しいチェック	451	49.9	51	
3 加工食品の厳しいチェック	352	39	39.8	
4 輸入品の厳しいチェック	423	46.8	47.9	
5 業者への指導を厳しく	316	35	35.7	
6 消費者への知識・情報を十分に	270	29.9	30.5	
7 消費者からの相談窓口・アドバイスを充実・強化	86	9.5	9.7	
8 その他	16	1.8	1.8	
無回答	19	2.1		
サンプル数 (% [^] -入)	903	100	884	

添付資料：アンケート用紙および集計データ

17. 食の安心・安全の今後について要望することは？（複数回答可）

17. 今後の要望	(MA)		
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 自給率をあげて安心・安全を強化する	667	73.9	76.3
2 海外産も安心できるように	362	40.1	41.4
3 安心・安全より食料確保を大事にする	122	13.5	14
4 安心・安全より環境問題を優先する	50	5.5	5.7
5 消費者と生産者の相互理解を大事にする	307	34	35.1
6 その他	3	0.3	0.3
無回答	29	3.2	
サンプル数 (% ^ペ -入)	903	100	874

18. 自由意見

4	薬で汚染された食物が市場に出回り、口にしているかもしれないと思うとぞっとする。安心安全な食物を安価に入手できるように力を入れて頂きたいです。
14	安心安全を感じることはないです。結局嘘の表示などがこれだけあると何を信じて買えば良いのかわからない。まずは全国共通の表示基準などを作るところから始めて欲しい。表示も色々な表示の仕方があってみにくい。
17	農薬の種類を表示して欲しい。
22	学校の食の安全性の勉強を増す。
30	自給率問題は大変大きな問題で、海外産の安全面も重要だが農林水産関係者のみの問題ではなく国の大きな問題と考えてもらえるように頑張りたい。
39	誤った表示は絶対許しません。消費者をごまかさなで下さい。
41	魚の表示法と農産物の表示は見方が違うんだという事を一般にもっと解かる様に啓発してもらいたい。
45	チェックしたその上で マークなのだろうが、その結果表示の仕方、本当だろうかと思いたい事もある。
55	食品が多数出まわっていますが特定の品物しか買いません。
86	認定マークだけが先行して消費する方が追いつかない。覚えられない。
102	とにかく安心で安ければ良い
114	安心安全であたりまえ。
123	食品添加物や農薬の問題は、私達の子供達の未来にも影響ある問題。生産する農家の人も消費者も無知ではすまない問題だと思います。
160	日常、安心安全についてはあまり気にしていない。
173	なんでもかんでも(アミノ酸等)エビフライを食べれば2/3はコロモ。さぎだらけ。真っ当な生産者が成り立つ制度を作りたい。
174	地場産農海産物の加工品の開発を(安全性を強調)・地場産品料理の店の充実を=少ない。・鮮魚介類の販売店の充実=少ない。
176	もっと生産者を大事にし応援し、それに応えられるように国も力をつけ、昔の日本の安全な食品を口にしたものだ。
182	加工食品についても原産地表示を義務付けるべきだ。ハチミツなど不腐敗食品の消費期限表示をもっと実体に即して解かりやすくして欲しい。
183	日本の食料自給率をもっと、少しでも上がることを望んでいます。国内、県内、地場その土地、地域で取れたものをその風土で味わえる幸せが新鮮で美味しさに繋がると思います。
185	認定マーク自体が信用出来ない。(今迄二セマーク自体が見つかるケースが多い。)日本は自給率を上げる努力をすべき、農業立国を目指すべき。

添付資料：アンケート用紙および集計データ

187	不当表示は許せないです
190	原材料表示を見て添加物の少ない物を買うようにしていますが、スーパーではなかなか品ぞろえがありません。農薬・添加物の影響が心配です。
192	生産者の意欲を高め安全でしかも流通コストを考え地元（県内）の農産物を利用したいと思います。
215	食に関する関心度が高いが、生産者、中間業者の認識不足。表示の改ざん等、安心時に疑問が残ります。徹底した指導を希望します。
224	自給率を上げ、他の国の圧力に屈しない。
228	無人販売所で買う野菜は、無農薬で安心だと思っていましたが、実は青果市場で卸す物と変わりなく、しかもその無人販売所で野菜を売っている人は、自分の家族の為の野菜を別の畑で薬を使わずに育てている事を知り、ますます農薬について不安を思います。
249	BSE に関しても2才以下の牛にも発症例がみられ全頭検査の必要を感じる。食の安全の為、安易な妥協は止めて欲しい。
253	国の補助金等で生産者を保護する事よりも、自立して世界との競争を勝ち抜き、かつ消費者にも受け入れられる価格を保持することは出来ないだろうか。自給率向上の為にも生産者が生き残れて始めて安全安心な商品を生産できるのでは？
255	生産者 - 消費者間の有機的ネットワーク構築の支援と継続指導・公表の支援・支援チームの構成
286	人間の種の保存にも関わる食品に対しては、厳しい目をもって今後もチェックして欲しい。環境汚染や食品添加物により、ホルモンのバランスの崩れている子供が多くなっている現在においては最も重要な事のように思えます。
290	食料供給基地である鹿児島県が、食の安心安全をキーワードに他県と差別化できれば、農業・食品加工工業の発展にも寄与する。
307	消費者の顧客満足度を高める為に、生産・流通段階の透明性を確保することが必要ではないか。
310	色々な表示・認定マークがあっても不正なものがあけば信用できないので、取り締まりの強化が必要。
311	商社、流通・市場関係者優位を是正し、国内外の生産・製造業者のモラルの向上が理想である。
319	偽装表示等何を信じていいのかわからない。制度（認証）も沢山ありすぎて解かり難い。
328	地産地消をさらに進め、安くて安心安全な流通システムを望む。食品添加物、防腐剤等の使用を極力おさえる。パッケージ等の改善。ゴミ問題分別しやすく。鹿児島産の食材を使っていかに美味しく食べられるか。鹿児島ならではのメニュー開発を望む。
334	多方面からの表示義務により、正しい表示についての認識が難しい。また、表示されていても判断が難しい。
336	製造・生産日の記入徹底。ラベル貼替は論外。
377	今、お取り寄せが受けているのは、安心を求めているからだと思う。少々の割高でも内容表示等が詳しくわかればそちらの商品を購入すると思う。
395	地元産、国内産が一番安全だとわかっているが価格の安い輸入品をつい買い求めてしまう。
399	安くて美しい物を求める私達の意識が悪いのでしょうか？生産者を追いつめているように感じます。
400	一言のウソ表示、不正をしない。安全優先。
407	政府は食糧危機を想定して「不足時の食料安全保証マニュアル」まで作っているのに米の減反を続けているのは矛盾している。生産地は別な所なのに加工した所が生産地の様に表示されておかしい。日本は消費者の安心安全より各種業界への配慮が優先。

添付資料：アンケート用紙および集計データ

413	チョコレートの原料であるカカオ豆の生産国と先進国の商社との関係が、顕著な例であるが「売れてもうかるから」の理由で魚や農産物をねこそぎ輸入している。今までの行政のあり方で良いのだろうか？高くついても日本農林水産業を見直し自給率を高めるべし。
421	出来るだけ自然食品を多く取り扱って欲しいと思います。例えばハム・ソーセージ等添加物を多く入れないで自然な形で作って欲しいです。
424	生産者を信頼し常に新鮮食材を選ぶ。
459	認証マークの安全性の確認はどのようなシステムになっているのでしょうか
464	認定制度は団体、グループ中心であるが個人としての認証等の制度充実を
465	食品の生産（原料の段階から）製造・販売について「うそ」「ごまかし」「不当表示」があまりにも多すぎる。公的機関・生産・製造団体が責任をも厳しいチェックを。大手メーカー・団体の方が組織くみでタチが悪い。この問題については本当に怒り心頭。
477	店頭に出ている全ての食品を安心して食べられるようになって欲しい。
484	事件や事故が発生してから行政や指導機関があわてて調査・指導に乗り出すので事前に防止する手だてを確立すること。
528	野菜は自分達（家庭）の分は自分で無農薬で生産しています。
531	農薬等の使用で環境問題が心配です。（自己の健康等への影響等）
547	行政と生産者の相互の連携を密にして安心安全な食糧を確保、販売してもらいたい。
558	生産者を経験した立場から言えば、現在の安心・安全の追求は行き過ぎの面も感じる。しかし、消費者の立場からすれば不十分とも感じられる。お互いが本当に必要と思う情報等を提供する事が必要ではないか。
564	自給自足しかないのか？と思う程、食品が汚染されてると思います。
566	食はなるべく生産者から購入できるようにしている。どこに信用できる基準があるというのか、余りにも表示が多すぎる。
571	いつでも安心して食品が購入できるようにして欲しいです。
581	価格重視で買物をしていたが、これからは多少割高であっても県内産の食品に目を向けて、自分達の健康だけでなく鹿児島島の食を盛り上げていく為にも利用・活用していきたい。
585	農薬等の検査の強化。海外産、必ず表示。消費期限は必ず表示。
588	正しい表示
590	正しい表示が欲しい
645	地産地消が一番おいしく食べられる。これからは、国内での生産を充実させる。いくら安くても、中国産の野菜・椎茸は買う機会が少なくなった。高くても国内産を買うようになった。安全性からみて国内産にこだわっている。
676	食品を取り扱う店の人には最低月1回位地区毎に研修会を開き、年間3回以上の出席を義務付ける等の措置をする（9回以上欠席ということはやる気なしとして 日間営業停止のペナルティを与える）それ位しないと店の人の安全意識は高まらないし維持はできないのでは
719	目に見えて安心できる食を子供達の時代までずっとあり続けてくれたらと思います。
721	賞味・消費期限の日付は本当に嘘ではないのか？どうにでも細工できるから。
724	安心・安全の製品を製造
733	自給率を上げて安心・安全の強化について強く希望します
736	擬似表示や明らかに安全性をうたがうような食料品類は消費者の不快を一番にかうものだと思われるので全てにおいて偽りのないようにして欲しいです。
744	安心・安全の確保のため参考になるはずの表示を嘘の表示（賞味期限の張替え、外国からの輸入なのに国産と替えたり）をする店等が、今問題にされています。そのような嘘のない本当の安心・安全を頂きたいです。

添付資料：アンケート用紙および集計データ

780	季節や地域的に見て本当に地場の商品だろうかと思われる物が表示されている事がある。国内で地産地消？出来る商品の製品の上昇は見込まれるのであろうか？
799	国内産が貴重で高いのは、おかしいと思う。自分の国なのに日本は、農業や漁業などの保護、活性化をすべきだと思う。その上で海外との取り引きをすべき。外国産の安いものにおされ、日本の質が良
808	生きていく為に大事な「食」を考える良い機会になりました。
809	信頼できる表示を。生産地(者)を見ても信頼すべきか疑問。
812	アンケートに応じた者としてアンケート結果を知りたいものです。
813	アンケート結果を表示して欲しいです。(集計結果を知りたいです)
814	この集計結果をお知らせ下さい。この結果がどのように反映するのか知りたい。
815	100%安心安全は無理だが出来るだけ努力している。情報が多すぎたり多識の正誤・・・なかなか難しい。
816	結果は「例えば」南日本新聞等へ公表して欲しい。
824	生産者の「表示」には期待できない。第三者機関による厳しい認証に伴うものに期待する。又、鹿児島農林水産物認証制度についても客観性が確保されているのか等の疑問もある。運用や組織のあり方
844	価格は多少高くなって良いので日本の自給率を高めて欲しい。生産者がいい商品をつくれる安定した環境をつくって頂きたい。
852	消費者の立場として、販売側が出す表示を信じて購入するしかない。なのに虚偽の表示があとをたない。本当に信じていいのか不安がのこる。行政・研究機関のチェックは今まで通ではダメだと思う。
854	食に対して大きな不信感アリ。現在育児中であるため安全な食を求めて2~3軒はしごすることもある。よく地元の物産館を利用する。利益追求の生産者、安さを求める消費者のバランスが保てず、非常に不安定な状態なのは・・・と思う。
861	特に何もなし